

# 令和6年度 事業・活動報告

令和 7年 5月



社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会

## 目次

<b>法人の事業・活動の概要</b>	1 ページ
<b>研究所</b>	12
社会政策研究所	
<b>中央分室</b>	13
事務局分室	
中央支援センター	
<b>中</b>	17
支援センター中	
ホームズ中央	
<b>あまみ</b>	26
支援センターあまみ	
ホームズあまみ	
<b>い～な</b>	37
ゲーテン	
ホームズみのお	
ホームズい～な	
<b>さくら</b>	47
支援センターさくら	
ホームズさくら・なでしこ	
就労支援統括センターみいーん	
<b>しらさぎ</b>	70
支援センターしらさぎ	
ホームズしらさぎ	
<b>ねぎぼうず</b>	80
支援センターねぎぼうず	

## 法人の事業・活動の概要

### 法人の経営理念

**みんなが みんなと みんなへ「手をつなぐ」**

育成会は「手をつなぐ」を合言葉にして、65年活動を展開してきました。「みんなが」「みんなと」「みんなへ」は、それぞれが「手をつなぐ」にかかっています。

「みんなが 手をつなぐ」は、私たちが行ってきた活動のスタイルであり

「みんなと 手をつなぐ」は、障害への理解のある社会を実現する手段であり

「みんなへ 手をつなぐ」は、より広い共生社会の実現を進める姿です

インクルージョンの理念のもと、知的障害のある本人も、家族も、支援者も、地域の人たちも、だれもが幸せに暮らせる共生社会の実現を、より多くの人とつながりながら実現していきます。

### 法人の事業・活動報告

令和6年度はその年度当初に国による障害福祉サービスの報酬改定が実施され、事業それぞれに少なからず影響がありました。生活介護事業では時間刻みの報酬設定、就労継続支援B型事業では手厚い職員配置への評価、就労継続支援A型事業では就労支援会計収入からの給与支出が明確化されるなど、多岐にわたる運用面の変更への対応を含み、大幅な収入減に至らないよう推移することができました。職員のベースアップなどに供与できる処遇改善加算については、これまで段階的に設定されてきた3種の加算が一本化されるなど運用が改訂される中、より上位の加算を取得しながら職員へのさらなる処遇改善を行うことができました。

他方では、令和6年3月に策定した、中長期（5カ年）計画を4月から施行し、5年を見通した目標に対して、各エリアおよび事業の計画が紐づき繋がっていることを認識できた一年でした。各部門における行動目標の下、テーマに沿った課題について、事業ごとの横断的会議において検討対策し、5年を見通した初年度の成果として様々確認することができました。そんな中、計画の実効性を求めて行くためには、さらに横断的にそして組織的に取り組む必要があることがわかり、令和7年度につなげるための横断的ワーキングのあり方について検討し組織づくりを行いました。

近年活性化に向けて取り組んでいる活動面においては、わかりやすくセミナー内で公開セミナーを引き続き実施し、若年層のご家族に多数参加をいただくことができました。その中から新たに入会いただいた方もおられます。また、個人会員と団体会員の会費を変更し、より多くの方と繋がることのできるよう工夫しています。太陽の子は紙面をリニューアルし、会員相互の交流が深まることと、他広報アイテムとの連携をしやすくしました。そして、会員の利便性をあげるべくホームページ内に会員ページを建てつけ、情報を得やすくしました。9月に開催した、第65回大阪知的障がい者福祉記念大会（堺大会）は、65回の開催を節目として本人大会を大会のメインに据え、本人実行委員を中心に、当事者のみなさんのエネルギーを感じられる大会となりました。

他方事業面においては、報酬改定とともに運用変更された事項と向き合いました。各事業所にて義務付けられた支援計画策定会議への本人参画や、虐待防止委員会や事業継続委員会、身体拘束適正化委員会の設置と研修会などの実施に順次対応しました。また、次年度より義務化される、グループホームにおける地域連携推進会議や、次年度 10 月から実施される新たな障害福祉サービス事業の就労選択支援事業など、新たな取組みについて情報収集し、法人内横断性をもって検証しました。法人としての課題である、経営の改善や人材確保育成などについても、プロジェクトチームによる法人横断的な議論を年間通じて実施しました。支援センターしらさぎの老朽化建替え、支援センターさくらの経営改善、人材確保、主任育成などのテーマにおいてそれぞれ成果をみています。

また、本年 4 月から 10 月にかけて開催される大阪・関西万博に関して、大阪手をつなぐ育成会としてこの 4 年間、会場全体のユニバーサルデザインやユニバーサルサービスに、大阪ヘルスケアパビリオンと、日本政府館のユニバーサルデザイン等にも参画してきました。また会場への交通アクセスの拠点となる大阪メトロ夢洲駅や JR 弁天町駅の整備に、会場への 3 か所のシャトルバス P&R の設備に、さらには、関西国際空港のリノベーション工事に参画をしてきました。知的障害者とその家族が取り残されることのない万博が実現するようかかわりを継続してきました。

このような中、平成 26 年 4 月策定の大阪手をつなぐ育成会将来構想ふろむわん＝つなぐ<sup>ぐっど</sup>good計画を、令和 6 年 3 月に「65<sup>th</sup>ふろむわん～将来構想」に改定し、同時に策定した中長期（5 カ年）計画に沿って事業運営を行いました。

### 【65<sup>th</sup>ふろむわん～将来構想における法人の運営方針】

#### ○ノーマライゼーションの浸透（地域の可能性を信じて）

一日、一カ月、一年、時間や月日、季節に応じたスケジュールと、自由に使う時間があること。多くの経験ができ、自分らしい暮らしとともに、働くことと、人の役に立てること。たくさん泣いて、たくさん笑って。友と語り、愛する人とつながって。あたりまえに暮らすことはみんな同じ。

#### ○エンパワメントの確立（本人の可能性を信じて）

その人らしさを大切に。得意なことを活かすこと。できることは他にもある。どうしてもできないことはだれにだってある。自分のことを自分で伝えられるように。そして多くの機会と経験を。失敗することも時には必要。

#### ○アドボカシーの推進（社会の可能性を信じて）

一人一人が尊重されるべき存在であること。意思が尊重され差別や虐待が無くなること。セーフティネットが地域に張り巡らされ、周囲の不当な侵害から守られること。合理的配慮の考え方が広がること。障害のある人が住みやすい社会は、全ての人が住みやすい社会。

#### ○マネジメントの活用（支援者、私たちの～可能性を信じて）

ニーズと資源を適切に把握した経営・管理を行うこと。限られた財源や資源の中で、それらを有効に活用する。こと支援においては、地域資源を活用し多様な見方や考え方に触れること。様々な資

源が繋がった「抱え込まない支援」は、障害のある人の生活や人生の幅を広げるもの。

### 【中長期（5カ年）計画における行動目標】

#### ○本人活動

⇒意思決定支援を具現化する活動と位置づけ、本人の声や姿を社会へ伝える

#### ○家族支援・育成会活動の活性化

⇒魅力あるセミナーを軸に「会員を増やす」とともに、法人内のつながりを再構築

#### ○人材確保・育成

⇒採用計画に基づく確保、人材の定着を促す環境整備、研修のブラッシュアップ

#### ○法人運営

⇒新しい財源確保と働き甲斐のある職場環境を整え、健全な法人運営を行う

#### ○生活支援

⇒（居住支援）利用者それぞれの思いに寄り添った生活の実現、地域住民としてまた、ライフステージに応じて、利用者・家族に安心して生活してもらえるようなチーム支援×を行う

⇒（日中支援）意思決定支援（意思形成、意思表出、意思決定）を軸に据えた支援の実践と経営の安定をはかる

#### ○就労支援

⇒大きな社会構造の変化の中で就職だけをゴールにしない、つながりを継続し柔軟で専門性のある育成会らしい就労支援

#### ○相談支援

⇒広域法人、親の会が母体である強みを活かした、育成会らしい相談支援事業のあり方を検討し再構築

### 【中長期（5カ年）計画を見据え、令和6年度に取り組んだこと】

#### 本人活動

大阪大会記念大会にて本人実行委員会の支援を行い、その主体性を発揮する姿に本人の可能性を改めて確認した。法人当事者役員（評議員）へのわかりやすい事前説明を含め支援を開始した。また、大阪府障がい者施策推進協議会へ派遣している当事者委員への支援について大阪府と協議し支援を開始した。

#### 家族支援・育成会活動

支部代表者連絡会の名称を支部連絡会に変更し、代表者だけではなく、個人や団体などだれしもが参加することを前提とした。個人会員および団体会員の会費を改め、WEB会員とともに繋がりやすい形への工夫を行った。法人ホームページ内に会員ページを開設し、会員のメリットを向上した。太陽の子をリニューアルし、他啓発ツールなどと紐づけ、効率的な広報への工夫を行った。

#### 人材確保育成

組織の活性化をねらい、新卒求人枠を大幅に増やした。OJT リーダーによる新採職員の育成や、階層別の研修などに引き続き注力した。人材確保プロジェクトチームにおいては、既存職員のエリア指定正職員への転換に係る制度の建てつけなどを行い、特務会議においては新卒求人確保や、法人内研修の建てつけを行った。

#### 法人運営

支援センターさくらの経営改善、支援センターしらさぎの老朽化建替えについて、年間を通してプロジェクトチームで議論し一定の成果を見た。支援センターしらさぎではさらに、地域活動支援センター事業を堺市から受託し、地域の貴重な資源になるとともに、収支改善にも繋がった。いわゆる遊休資源であるさくらとしらさぎの土地活用については、コンサルテーションを受け、考え方と方向性の知識を得た。災害時に必要なエマージェンシーキットを購入し、グループホームを中心に設置した。

#### 生活支援（居住）

グループホームスタッフの確保が大きな課題であり、新規採用の活動を各事業所において注力した。そんな中、既存のスタッフが長く勤めていただけるよう、雇止め年齢を80歳と改めた。法人世話人研修を昨年に続いて定例実施した。また、利用者の高齢化に対応すべく、介護技術研修を実施した。物価高騰の中、食費など利用者負担金の増額への事務に取り組んだ。

#### 生活支援（日中）

報酬改定に対応すべく、法人内生活介護事業実施事業所間で、情報交換し効率的で適正な運用について協議した。意思決定支援に取り組むべく、事業所内に本人自治会を立ち上げ支援を開始した。法人内生活介護事業所における支援内容について標準化すべく人材交流を行った。

#### 就労支援

学齢期家族、企業、支援者それぞれのニーズに応じた公開セミナーを企画運営し、育成会の就労支援の啓発と、新規入会や利用者確保の一助とした。横断的なスーパーバイズの体制を整え、支援力の継承に取り組んだ。就労選択支援事業の実施について情報を集め、分析の上法人で実施することについて検討した。

#### 相談支援

ともだちの会支援を引き続き行い、大阪大会および近畿大会の本人実行委員会についても支援を行った。ホームページにて広報を行い、ともだちの会へ数名新規入会した。中央支援センターと支援センターい〜なの両事業所に相談員を配置し体制を強化した。

#### 組織図

評議員会——育成会活動本部会議——支部組織・会員

| (わかりたくすセミナー：支部連絡会、就労支援、生活支援、社会参加  
| 権利擁護、育成会活動活性化、本人部会)

## 理事会

- | —— 将来構想推進委員会・情報管理委員会・虐待防止、身体拘束適正化委員会
- | 事業継続（防災含）委員会・感染症対策委員会・苦情解決第三者委員ほか

## 理事長

### 常務理事—— 事務局長

- | 事務局 管理部（総務, 人事, 企画）、事業部（生活支援, 就労支援
- 経営会議 | 相談支援）、活動部（育成会活動, 地域貢献）
- | 事務局分室
- 所長会議 | 中央支援センター（相談支援・早期療育支援）
- | —社会政策研究所
- | わかりたすく工房
- | —支援センター中（生活介護・就労継続支援B型）
- | ホームズ中央(グループホーム)
- | ヘルパーステーションなか（居宅介護・移動支援）
- | —支援センターあまみ
- | あまみ・ピカ☆イチ（就労継続支援B型・就労定着支援）
- | ホームズあまみ(グループホーム・自立生活援助)
- | —支援センターい〜な（相談支援）
- | ゲーテン(生活介護)
- | ホームズみのお(グループホーム・短期入所)
- | ホームズい〜な(グループホーム)
- | —支援センターさくら（相談支援）
- | 就労移行支援・自立訓練・就労継続支援B型・就労継続支援A
- | 型（スワンカフェ&ベーカリー大東店）・就労定着支援事業部・
- | 短期入所
- | ホームズさくら、ホームズなでしこ(グループホーム、短期入所)
- | 就労支援統括センターみいーん
- | 障害者就業・生活支援センター事業
- | 訪問型職場適応援助者
- | —支援センターしらさぎ
- | 就労移行支援・就労継続支援B型・自立訓練・就労定着支援事
- | 業部
- | 訪問型職場適応援助者
- | ホームズしらさぎ(グループホーム・短期入所)
- | —支援センターねぎぼうず（生活介護）

※なお、法人役員の業務遂行に関するリスクへの備えとして、団体役員賠償責任保険補償制度に加入しています。

## 組 織

8ブロック（北大阪、北河内、中河内、南河内、堺市、泉州、大阪市、本人の会）に計39支部を組織しています。

支部会員 1,116名 個人会員 35名 WEB会員 2名 団体会員 1団体

プレミアム会員 5名 賛助会員 8名 団体賛助会員 3団体

（令和7年3月末現在）

令和6年度についても支部の解散などがあり会員は減少しました。一方で、団体会員の加入を促進するべくメリットの整理、チラシの作成、啓発動画の作成、会費の改定など活動を行いました。

## 助成金・寄付金・寄贈品

行政や助成団体等から、多額の助成金やご寄附・ご寄贈をいただきました。ありがとうございます。主なものは、ジェイアイシーウエスト株式会社様から300,000円、株式会社小松製作所様から50,000円をはじめ、大阪府被服工業組合様より作業服など、合計37件の個人や企業・団体様からの寄付金合計9,116,424円をいただきました。なお、大阪府共同募金会様からは令和5年12月に実施されたNHK歳末たすけあい募金の配分金として2,180,000円をいただいています。ご寄付をいただきました府民の皆さまに感謝いたします。重ねてお礼申し上げます。

## 活 動

### 【通常事業活動】

**理事会**（定数10名） 4月18日、5月30日、6月13日、7月11日、8月22日、10月10日、11月21日、1月9日、3月13日、3月28日の計10回開催しました。

**評議員会**（定数13名）6月13日、9月10日、12月10日、3月28日の計4回開催しました。

**評議員選任解任委員会** 実施はなし

**将来構想推進委員会** 「65<sup>th</sup>ふろむわん～将来構想」の進捗管理を3月28日の理事会で行いました。

**経営所長会議** 4月18日、5月16日、6月11日、7月11日、8月22日、9月12日、10月10日、11月21日、12月12日、1月9日、1月28日、2月20日、3月13日の計13回開催しました。

**情報管理委員会** 7月31日に実施しました。苦情解決事案およびヒヤリハット等について報告を行いました。

**事業継承、感染症対策、虐待防止・身体拘束禁止委員会** 7月31日に実施しました。各事業所における事業継続計画を共有しました。虐待と思しき事案、ヒヤリハットなどを共有しました。事業所における各種委員会の設置や研修の実施など取組について確認しました。

**苦情解決システム** 法人全体の苦情解決システムの一環として、事業所ごとに苦情受付担当者・苦情解決責任者を配置するとともに、引き続き2名の第三者委員を配置し、適宜巡回相談を行いました。

**職員研修体制** 法人全体の職員研修として、1月～3月に人権研修、1月6日には選択研修を実施しました。また、虐待防止研修を各事業所にて実施しました。他、採用異動時研修、階層別研修（一般職員、スキルアップ、主任、課長、所長）、OJTリーダー研修などに取り組みました。また、わかりたすくセミナーをキャリアパス指定研修や階層別研修のメニューとし、法人全体研修として取り組みました。グループホーム世話人研修については、担当者の企画運営によりハイブリッドにて実施しました。

### 【育成会活動】

**育成会活動本部会議** 4月9日、5月14日、6月13日、7月9日、7月30日、9月10日、10月8日、11月12日、12月10日、1月14日、2月4日、3月11日の計12回開催しました。

**大阪府市育成会役員懇談会** 3月11日

**第65回大阪知的障がい者福祉大会** 9月29日（日）国際障害者交流センタービッグ・アイにて開催しました。参加者 393名（家族研修93名、本人大会156名、PMコンサート42名、来賓・出演者・スタッフ等102名）を得ました。

**第63回近畿知的障がい者福祉大会** 12月1日（日）大阪市にて開催されました。

**近畿リーダー養成研修会** 9月26日（木）奈良県にて開催されました。

**全国手をつなぐ育成会連合会全国大会** 10月12日（土）～13日（日）秋田県にて開催されました。

**啓発紙「太陽の子」の毎月発行** 3,600部発行

**本人活動啓発紙「青空新聞」** 年間2回発行3,600部（太陽の子差し込みにて）

**わかりたすくセミナー**

**要望活動** 大阪府への要望／市町村への要望支援／全育連を通じて国への要望

**更生相談（権利擁護相談）** 随時実施

**大阪ともだちの会への支援**

**近畿連育成会役員会** 4月3日、6月5日、8月7日、10月2日、12月4日、2月5日

## 事業

### 生活支援部門

- 生活介護事業（ゲーテン） 定員30名
- 生活介護事業（中） 定員20名
- 生活介護事業（ねぎぼうず） 定員20名
- 共同生活援助事業（H中央、Hあまみ、Hい～な、Hみのお、Hさくら、Hなでしこ、Hしらさぎ）

- 居宅介護事業（中）
- 移動支援事業（中）
- 短期入所事業（Hみのお、さくら、Hなでしこ、Hしらさぎ）
- 日中一時支援事業（地域生活支援事業／中、あまみ、い～な、さくら）
- 自立生活援助事業（Hあまみ）
- 一般相談支援事業（中央、い～な、さくら）
- 特定相談支援事業（中央、い～な、さくら）
- 障害児相談支援事業（中央、い～な、さくら）
- 知的障がい者文化芸術・スポーツ活動等推進事業（地域生活支援事業/大阪府委託事業）
- 障害児早期療育事業（ポニーの学校）（島本町委託事業）
- 自主製品のWEB通販（中、ねぎぼうず、しらさぎ）

### **就労支援部門**

- 就労支援統括センターの運営（みいーん）
- 就労移行支援事業（さくら） 定員 8 名
- 就労移行支援事業（しらさぎ）定員 10 名
- 自立訓練（生活訓練）事業（さくら）定員男女 12 名
- 自立訓練（生活訓練）事業（しらさぎ）定員男女 6 名
- 就労継続支援 A 型事業（さくら・スワンカフェ&ベーカリー大東店）定員 10 名
- 就労継続支援 A 型事業におけるベジハグバーガーの展開（さくら）
- 就労継続支援 B 型事業（中）定員 20 名
- 就労継続支援 B 型事業（しらさぎ）定員 24 名
- 就労継続支援 B 型事業（あまみ・ピカ☆イチ）定員 20 名
- 就労継続支援 B 型事業（さくら）定員 10 名
- 就労定着支援事業（さくら、あまみ、しらさぎ）
- 知的障害者雇用清掃事業（みいーん）
- エル・チャレンジに係る清掃事業（大阪府・大阪市委託事業）（みいーん）
- 訪問型職場適応援助者による支援事業（ジョブコーチ）（みいーん）
- 障害者就業・生活支援センター事業（国・大阪府委託事業）（みいーん）
- 地域就労支援（コーディネーター活動推進）事業（大東市委託事業）（みいーん）
- 障害者雇用相談援助事業（みいーん）
- 就労支援啓発セミナーの開催（みいーん）

### **人材支援部門**

#### **【職員研修体制】**

- 新採職員研修（年 8 回／現場研修含む）
- フォローアップ研修（2～4 年目職員対象）
- スキルアップ研修（5 年目以上職員対象）

- 世話人研修
- 課長所長研修
- 役員研修

#### 【研修など内容】

- 各事業所における職員研修（虐待防止、事業継続含む）
- キャリアパス研修
- わかりたすくセミナー
- 社内誌「つなぐちゃんベクトル」の毎月発行
- 支援専門職向けの政策セミナーの開催

#### 地域貢献部門

##### 【スポーツ・文化イベントの実施】

- 大阪知的障がい者福祉大会
- スポーツフェスタ大阪
- い～なまつり
- さくらフェスタ
- しらさぎまつり
- 手をつな good ボウリング
- 手をつな good ボッチャ
- 育成会旅行（日帰りツアー、年末1泊旅行）
- 新成人と還暦を祝うメッセージカードとお祝いの品送付
- 観桜会やミュージカル、スポーツや文化各種招待行事のあっせん

##### 【講師や委員派遣・コーディネート】

- 研修会等への各種講師の派遣
- 企業等の社会貢献活動のコーディネート
- 市町村審査会等への人材派遣
- 市町村自立支援協議会等への人材派遣

##### 【社会政策研究所の運営】

- 情報誌「大阪 06 ヘッド」の編集発行 月3回程度
- 支部連絡会等への情報提供 毎月
- 政策ゼミナール 毎月第4火曜日
- 政策フォーラム

##### 【その他】

- 寄贈品の分配（お米、作業服）
- ボランティアの募集
- 旅行社による知的障害向け旅行の開発支援

#### 法人・団体との連携部門

- 全国手をつなぐ育成会連合会への参画

- 大阪知的障がい者スポーツ協会への参画
- 大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合への参画
- 一般社団法人エル・チャレンジ等への参画
- ODF(大阪障害フォーラム)における他の障害者団体との交流連携
- 相談支援四者会議

大阪府障がい者自立相談支援センター、大阪市心身障がい者リハビリテーションセンター、堺市障害者更生相談所との相談支援に関する定期的な情報交換会を毎月開催

### **主な行事**

- 第9 全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 秋田大会 10月12日～13日
- 第63 回近畿知的障がい者福祉大会 大阪市大会 12月1日
- 第27 回近畿連リーダー養成研修会 奈良県 9月26日
- 事業所協議会全国研修大会 北海道 11月9日
- 第42 回スポーツフェスタ 2024 大阪 10月12日13日ほか
- 全国障害者スポーツ大会 佐賀県 10月26日～28日
- 権利擁護セミナー 兵庫県 1月31日
- 全育連総会 6月21日
- 全国代表者事務局長会議 3月12日
- 育成会フォーラム 4月～5月 オンラインによるリモート開催
- 令和7年新年懇親会 1月14日buffetによる懇親
- 手をつな good ボウリング 7月7日
- 手をつな good ポッチャ 12月8日
- 年末育成会旅行 12月29日～30日 岡山、兵庫方面
- エル・チャレンジ総会 5月30日
- 大阪障害フォーラム(ODF)総会 6月22日
- 障害者週間シンポジウム 12月4日
- 大阪府社会福祉大会 11月28日

## 大阪府や国等行政への審議検討参画

大阪府障がい者施策推進協議会	小田理事長
意思疎通支援部会	小尾理事
文化芸術部会	小田理事長
大阪府障がい者差別解消協議会	小田理事長
大阪府障害者自立支援協議会	小尾理事
地域支援推進部会	小尾理事
基盤整備ワーキング	原田所長
就労支援部会工賃向上委員会	平澤所長
虐待防止推進部会	東野理事
大阪府地域福祉推進審議会	小尾理事⇒坂本理事
権利擁護支援体制推進協議会	坂本理事
福祉サービス第三者評価事業推進分科会	坂本理事
大阪府福祉のまちづくり審議会	小田理事長
計画評価検討部会	小田理事長
大阪府障がい者給付不服審査会	小尾理事
大阪府運営適正化委員会	谷川常務理事
ふれあいキャンペーン実行委員会	小田理事長
大阪関西万博ユニバーサルデザイン WS	小尾理事
施設設備関係	小尾理事
交通アクセス	小尾理事
サービス対応	小尾理事
大阪パビリオンユニバーサルデザイン WS	小尾理事
日本館パビリオンユニバーサルデザイン WS	小尾理事
関西国際空港リノベーションユニバーサルデザイン検討会	小尾理事
	ほか

## 研究所

### 社会政策研究所

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会の50周年記念事業の一環で、15年余り社会的貢献の象徴として、社会政策研究所を運営してきましたが、研究員などの次代の担い手の確保が見通せない状況であることから機能の縮減を行いました。必要な機能は事務局へ移管します。

**所在地** 事務局内

**職員** 所長 1名 客員研究員 2名

**事業** 令和6年度の事業は以下のとおりです。

○(社福)大阪手をつなぐ育成会の情報誌「大阪〇6ヘッド」月に3~4回発行  
01 オピニオン 02 オリジナル 03 オープン 04 おおきに 05 おもろい 06 大阪

○わかりやすく工房 支部連絡会等への情報提供

○政策ゼミナール 「手をつなぐ」を素材に情報交換

4月24日	18歳問題	5月28日	全国大会(愛媛)(中止)
6月25日	成年後見制度	7月23日	夏休みの過ごし方
8月27日	制度改正	9月24日	能登半島地震
10月29日	居場所	11月26日	権利擁護と意思決定支援
12月17日	食べる	1月28日	選挙と政治への参加
2月25日	趣味	3月25日	全国大会(秋田)報告

○講師等の派遣 依頼に応じて講師等の派遣を実施

LLブックセミナー 3月23日 大阪市立中央図書館(藤澤研究員) 参加者約100名

○その他 たまにブログ など

## 事務局中央分室（中央支援センター）

### I 事業一覧

- 特定相談支援事業
- 一般相談支援事業（地域移行・地域定着）
- 障害児相談支援事業
- ポニーの学校（島本町委託事業）
- 本人活動支援（大阪ともだちの会、近畿みんなであつまる会、金曜サロン）
- 更生相談（広域専門相談）

### II 概要

「事務局中央分室」中央支援センターは、支援センター中内に拠点を置き、大阪市より特定相談・一般相談・障害児相談支援事業の指定を受け、大阪市東成区において、計画相談支援・地域移行支援・地域定着支援・障害児相談支援事業を展開した。主に大阪府域をはじめ一部他市のケースも対応した。さらに、東成区自立支援協議会へ積極的に参加し、東成区基幹相談支援センター東成育成園と連携して、地域の課題に積極的に対応した。また、事務局の分室として以下の事業についても実施した。なお、ポニーの学校は令和6年度をもって委託終了となった。

- 1) ポニーの学校（島本町委託事業）令和7年3月31日付委託終了
- 2) 更生相談（広域専門相談）

相談支援事業の人員体制としては、当初、管理者兼相談支援専門員1名（室長兼所長）、正規職員相談支援専門員（主任 さくらと兼務）、非常勤相談支援専門員1名（産休育休）、非常勤（フルタイム）相談員1名であり、請求事務等は事務局職員の支援を受けた。また、ポニーの学校支援スタッフは3名、予備要員1名であった。

法人事務局の分室として「育成会活動」の拠点も担うこととし、わかりやすくセミナー、育成会活動本部会議などの運営に携わった。その他本人活動支援（大阪ともだちの会）、青空新聞作成、法人事務局と協働で金曜サロンの実施を行なった。また、育成会大会本人大会の運営、全日本手をつなぐ育成会連合会本人活動支援委員会、発達障害白書の編集への参画、オブザーバーとして全育連本人参画研究会当事者インタビューの支援も行った。

さらに、人材確保の一環として、社会福祉士相談援助実習の受け入れを積極的に行った。（東京通信大学から3名、大阪国際福祉専門学校から2名受け入れ）また、職場体験・イ

ンターシップ 2 名の受け入れも行っている。

令和 6 年度大阪大会は、第 65 回の記念大会として、本人大会をメインに行い、総合司会の 1 人に実行委員会メンバーが就いたり、大阪ダウン症協会から当事者の漫才・落語の出演など当事者たちの力で盛り上げることができた。

### Ⅲ 事業概要

・相談支援、ポニーの学校（島本町障害児早期療育事業）

相談支援利用者の状況

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
（内障がい児数）	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14
計画相談請求件数（者）	6	7	6	8	5	8	8	8	8	4	7	8
計画相談請求件数（児）	1	5	2	2	5	1	6	5	4	4	4	5
地域定着支援態勢確保（契約数）	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
緊急支援（回）	1	0	1	1	1	1	1	3	0	2	1	1
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本相談	2	1	0	3	0	0	1	0	3	0	2	3

ポニーの学校

事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ポニー（実人員）		5	5	5	5	5		5	5	5	5	5

\* 4 月 10 月については、インターバル 3 回

・本人活動

ともだちの会 4 月 28 日（日）総会 支援センター中 参加 31 人  
 5 月 26 日（日）学習会 虐待について 阿倍野市民学習センター 参加 30 人  
 6 月 23 日（日）学習会 食事と健康 阿倍野市民学習センター 参加 30 人  
 7 月 28 日（日）学習会 防災について 阿倍野市民学習センター 参加 24 人  
 8 月 25 日（日）クラフト（お面づくり）阿倍野市民学習センター 参加 23 人  
 9 月 29 日（日）第 65 回大阪大会本人大会 ビッグ・アイ  
 10 月 27 日（日）日帰り旅行 須磨シーワールド 参加 31 人  
 11 月 24 日（日）お茶してしゃべろう会 阿倍野市民学習センター 参加 28 人

12月22日(日) クリスマス忘年会 阿倍野市民学習センター 参加23人  
1月26日(日) ボッチャ大会 阿倍野市民学習センター 参加32人  
2月23日(日) さくら会との交流会 阿倍野市民学習センター 参加37人  
3月30日(日) 奈良合同運動会 奈良県営福祉パーク 参加27人

ともだちの会登録者 49人

大阪大会 本人大会実行委員 3月24日(日) 阿倍野市民学習センター  
4月28日(日) 阿倍野市民学習センター  
5月26日(日) 阿倍野市民学習センター  
6月23日(日) 阿倍野市民学習センター  
7月28日(日) 阿倍野市民学習センター  
8月25日(日) 阿倍野市民学習センター

大阪大会 本人大会 参加者198名 フェスタ協力団体1団体

ともだちの会支援者体制 中央分室職員3名 事務局1名 エリア支援者登録5名 ボランティア1名

青空新聞 6月15日(第114号) 12月15日(第115号)

本人活動支援委員会(本人参画研究会と合同開催) 1月8日(火) 原田

#### ・更生相談

対応ケース数	4月	11件	: 権利擁護関係(虐待含む)4件、触法関係11件	重複あり
	5月	10件	: 権利擁護関係(虐待含む)4件、触法関係10件	重複あり
	6月	11件	: 権利擁護関係(虐待含む)4件、触法関係11件	重複あり
	7月	11件	: 権利擁護関係(虐待含む)4件、触法関係11件	重複あり
	8月	12件	: 権利擁護関係(虐待含む)5件、触法関係12件	重複あり
	9月	12件	: 権利擁護関係(虐待含む)5件、触法関係12件	重複あり
	10月	12件	: 権利擁護関係(虐待含む)5件、触法関係12件	重複あり
	11月	11件	: 権利擁護関係(虐待含む)5件、触法関係11件	重複あり
	12月	11件	: 権利擁護関係(虐待含む)5件、触法関係11件	重複あり
	1月	12件	: 権利擁護関係(虐待含む)6件、触法関係12件	重複あり
	2月	13件	: 権利擁護関係(虐待含む)6件、触法関係13件	重複あり
	3月	15件	: 権利擁護関係(虐待含む)8件、触法関係15件	重複あり

実ケース数 18件

#### ・地域貢献等

東成区相談支援部会 毎月第4木曜日

東成区自立支援協議会 6月21日(金)、10月25日(金)、2月21日(金)  
きらっと☆東成 2024 (障がい者スポーツ紹介) 12月4日(水)、12月6日(金)  
(障がい者事業所紹介) 1月22日(水)  
東成区いろいろ相談会 10月11日(金)  
島本町障害支援区分認定審査会 毎月第4火曜日  
発達障害白書編集委員会 3月26日(水) Web  
本人参画研究会インタビュー 2月15日(土)

## 支援センター中

### I 事業概要

支援センター中は、幅広い年齢の方が利用をされており、ひとり一人のニーズや背景にあわせて限られたスペースの中で、利用者が安全で満足できる活動ができるように、職員間で知恵を出し合いながら取り組んだ1年であった。高齢化・重度化が進み、昨年より車椅子や歩行器を必要とする利用者が増加、それに比例して介助に時間をかける割合が増えた。また、集団での行事については、昨年のように全員で一緒に活動することが難しく、小グループでの活動に切り替えたり、利用者自治会を設けて日中での活動や行事の中で利用者の意見を取り入れたりして実施した。

就労継続支援B型事業については、昨年同様「働く・楽しむ・学ぶ」を目的として創作活動以外に学習会や音楽プログラムを取り入れ、これまで気付かなかった利用者の新たな側面を確認し、支援に活かすことができた。生活介護事業については、高齢化・重度化する中、昨年同様のサービスに加え、職員配置の見直しや作業、余暇、行事などなるべく本人の意向に合わせた選択ができるように機会を設け、利用者の満足につなげた。

家族会や満足度調査からの意見については、昨年同様に職員間で共有して改善に取り組んだ。また、魅力のある事業所・透明性のある地域の中の事業所を目指す目的で、地域からの招待行事には積極的に参加し、地域住民との交流や事業所理解に取り組んだ。

日頃の活動や行事での様子等を定期的にホームページに掲載し、事業所の取り組みを多数の方に発信することに取り組んだ。

### II 事業内容

○支援センター中	就労継続支援（B型）事業	20名
	生活介護事業	20名
	日中一時支援事業（包括型）	（大阪市・八尾市）
○ホームズ中央	共同生活援助事業	14名
○ヘルパーステーションなか	居宅介護事業、移動支援事業	

### III 課題への取り組み（令和6年度重点項目の取り組み）

#### 就労継続支援B型（定員20名）

利用者の意思及び人格を尊重し、就労に必要な知識、能力が向上することと、生産活動（委託加工、自主製品作成、販売訓練）に加え、利用者から意見を取り入れた余暇活動（創作活動）、体力維持プログラム（100歳体操等）を固定化し、利用者が常に選択できる個別の取り組みを目指した。

作業支援については、昨年同様、利用者の希望する作業を取り組めるようにし、全

体で1日の出来高や個別で取り組めた時間の確認を行った。また、工賃でどのような物が購入できるか確認して働く意義、意欲の向上につなげた。その結果、例年通りの平均工賃を維持することができた。

学習会については昨年度に引き続き、企業の協力を得て身だしなみ講座や水分補給についての講座を行い利用者の生活力向上につなげた。また社会生活力を維持する機会として長居植物園での写生会や、プラネタリウム等の社会見学は継続して行った。行事を希望しない利用者については、別の活動を用意して利用者の満足につなげた。

さをり工房「なかなか」については、法人主催のセミナーや東成区役所など定期的に販売する機会に加えて、地域で実施しているマルシェ（バザー）に利用者と共に参加し、さをり織の啓発・販売以外に、地域への啓発活動に取り組んだ。

#### 生活介護（定員20名）

昨年同様、日々の取り組みでは、生産活動（委託加工）のほか、塗り絵やビーズアクセサリーの作成、体を動かす機会等、個々の利用者が希望する取り組みを提供するように努めた。ご本人の意向の確認にはコミュニケーションツール及び実物や写真を用いて選択してもらえよう取り組みを個々の職員が意識して行った。

午後のレクリエーションプログラムとして、リズム体操、エイサー（沖縄諸島全域に伝わる盆踊り）など体を動かす取り組みを、東成区民センターを利用して、講師を招いて取り組む機会を提供した。エイサーについては、昨年度より活動を発表する機会として当センターが実施した「クリスマス会」で披露することができ、利用者へのいい刺激となった。音楽療法プログラムは、エレクトーンの音に合わせて手作り楽器を使用し、楽しむ機会を設けた。

余暇活動の一環である季節に応じた行事については重度化している利用者の安全を確保した上で、満足していただけるかを職員間で知恵を出し合い、花見・夏祭り・クリスマス会等を実施した。日帰り旅行については、日を変えて2回にわけて実施し、利用者から満足した評価をいただいた。

#### IV 年間行事、日課など

##### 1. 日課 生活介護

午 前		午 後	
9:30	登 所	13:00	個別活動
10:10	朝 礼	14:00	休 憩
10:20	個別活動	14:15	レクリエーションプログラム
11:00	休 憩	15:20	片付け
11:10	個別活動	15:40	終 礼
12:00	昼 食	15:45	降 所

就労継続支援（B型）

午 前		午 後	
9:15	登 所	13:00	生産活動
9:30	朝 礼	14:00	休 憩
9:40	ラジオ体操	14:10	生産活動・プログラム
9:45	生産活動	15:30	片付け・掃除
12:00	昼 食	15:50	終 礼
		16:00	降 所

2. 年間行事

日時	行事名	場所	事業名
令和6年4月6日	花見	大阪造幣局	就B・生活
令和6年5月18日	喫茶体験		就B
令和6年6月7日	おたのしみ会	びっくりドンキー他	生活
令和6年7月7日	つな good ボウリング	HOS ボウリングスペース HIT	生活・就B
令和6年7月17日	社会見学	宇治園心斎橋本店	就B
10月18日	抹茶体験・防災体験他	阿倍野防災センター他	
令和6年7月24日	避難訓練	支援センター中	生活・就B
令和6年7月26日	夏まつり	支援センター中	生活・就B
令和6年8月17日	カラオケ大会	ジャンボカラオケ広場	就B
令和6年9月24日	身だしなみ講座	東成区民センター	生活・就B
令和6年9月29日	大阪知的障がい者福祉大会	ビック・アイ	生活・就B
令和6年10月12日 から13日	スポーツフェスタ	長居陸上競技場他	生活・就B
令和6年10月24日	東成区医師会 健康展	東成区民センター	就B
令和6年11月22日	日帰り旅行	神戸須磨シーワールド	就B
令和6年12月2日	日産労連クリスマスチャリティー	ビック・アイ	就B

令和6年12月6日	写生会	長居植物園	就B
令和6年11月10日	グループ日帰り旅行	ニフレル	生活
令和6年12月14日	クリスマス会	東成区民センター	就B・生活
令和7年1月6日	新年会	支援センター中	生活・就B
令和7年1月18日	初詣	堀川戎	就B
令和7年1月24日	日帰り旅行	神戸須磨シーワールド	生活
令和7年2月19日	避難訓練（2回目）	支援センター中	生活・就B
令和7年2月20日	学修会（水分補給）	支援センター中	就B
令和7年3月7・11日	ごくろうさん会	天山閣	就B・生活
令和6年7月8日から 7月31日	支援センター中展	東成区民センター	就B・生活

その他

家族会	毎月1回
介護等体験（教育）	0名
土曜開所	概ね月1回実施
介護実習（福祉）	2名
職場体験・インターンシップ	3名
選択弁当	月1回実施
さをり販売 （バザー販売）	東成区民センター（月1回）・支部連販売（月1回） 大阪ガス・ママモリマルシェ（守口市）・門真市手作り市（門真市）ハンドメイドバザール（大阪市）他
除草作業	令和7年2月 大阪府立緑風冠高校 除草作業（就Bのみ）
学習会	身だしなみ講習（資生堂）水分補給（大塚製薬）
地域啓発・交流	支援センター中展（東成区民センター1階フロア）

## V 事業概況

### 1. 利用者の状況

令和7年3月31日現在

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
在籍者	44	44	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	
当月入所者	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
当月退所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
開所日数	22	22	21	23	19	20	23	21	21	20	19	21	
就労継続B型	男性	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
	女性	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	計	19	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
	延べ利用者	337	339	339	385	317	331	393	358	359	332	326	340
	利用率	76%	77%	80%	83%	83%	82%	85%	85%	85%	83%	85%	80%
生活介護	男性	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	
	女性	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
	計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	
	延べ利用者	369	358	338	376	290	317	383	354	351	323	309	330
	利用率	83%	81%	80%	81%	76%	79%	83%	84%	83%	80%	81%	78%
日中一時	男性	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員\*開所日数

### 2. その他利用者情報

(障害支援区分と援護市の状況)

令和7年3月31日現在(人)

事業名	就労継続B型 現員20名(定員20名)		生活介護 現員25名(定員20名)	
	区分	人数	区分	人数
障害支援区分	区分6	1	区分12	12
	区分5	6	区分4	4
	区分4	6	区分8	8
	区分3	4	区分1	1
	区分2	1	区分0	0
	区分1	0	区分0	0
	区分なし	2	区分0	0

援護市別利用者数	大阪市 14名	大阪市 22名
	八尾市 5名	八尾市 3名
	東大阪市 1名	

### 3. 年齢の状況

(人)

事業名		就労継続B型	生活介護
19歳以下	男	1	1
	女	0	0
20歳～29歳	男	2	6
	女	0	1
30歳～39歳	男	3	1
	女	0	0
40歳～49歳	男	2	4
	女	1	2
50歳～59歳	男	3	3
	女	2	4
60歳～69歳	男	2	0
	女	2	1
70歳以上	男	1	1
	女	1	1
平均	男	45.5歳	38.1歳
	女	61.2歳	53.4歳

### 4. 工賃支給実績（就労継続支援B型）

月	4	5	6	7	8	9	10	11
工賃総額(円)	87550	96450	97550	98300	106050	92950	220460	104950
延べ利用者数	337	339	339	385	317	331	393	358
開所日数	22	22	21	23	19	20	23	21

月	12	1	2	3	計
工賃総額(円)	94000	92250	89350	431890	1611750
延べ利用者数	359	332	326	330	4146
開所日数	21	20	19	21	252

平均工賃月額①	
8140	円

重度障害者支援体制加算 (I)を算定している場合 (①+2000円)	
10140	円

## ホームズ中央

### I 事業概要

ホームズ中央は、今年度も地域で自分らしい生活を送ることを希望している14名の利用者の支援、援助を行なった。また、利用者・家族の生活ステージを把握して、地域生活の展開について検討を行なった。令和6年4月よりグループホームを統合・縮小し新たな体制でスタートした。統合されたグループホームについては、利用者が戸惑うことなく適切に移行ができた。利用者が楽しみにしている行事については、さらに選択肢が増え、カラオケや地域のまつりに参加するホームがあり、利用者の希望に沿う取り組みや地域住民とのふれあいを行った。

しかし、地域生活や人間関係等に疲れた利用者が2名現れ、ホームだけの支援では難しく、家族・相談支援・医療機関・障害福祉サービス事業所等と連携し支援を行うが、結果、現在長期入院中1名、長期自宅静養中1名と地域生活支援・グループホーム支援の難しさを感じる1年であった。

### II 課題への取り組み（令和6年度重点項目の取り組み）

#### 共同生活援助

利用者の身体及び精神の状況に応じた支援計画を基本にすえ、主体的で豊かな生活を送ることができるように取り組んだ。また、今年度よりグループホームに看護師を配置し定期的にホームを訪問し、利用者、世話人、生活支援員に対し、健康面での助言をおこなった。また、移動支援事業所と連携し、利用者の希望する観光や活動等に参加し、余暇活動の充実に取り組んだ。

グループホームのサービスの透明化・質の確保を目的として、ホーム家族会に満足度調査アンケートを実施し環境面及び支援内容について意見交換を行い改善に努めた。集計した満足度調査については所長のコメントを記入した上、ホームズ中央のホームページに掲載し、利用者・家族等に公表した。また、昨年度から続く物価高騰については、事前に利用者及びご家族に物価高騰に関わる案内を配布し、利用者・世話人に節約の協力を求めたが、結果1ホームのみ生活費の追加徴収をする必要があり、月額で利用者からいただいている生活費の見直しが必要となった。

#### 1. 利用者の状況（毎月末日）定員 14名

令和7年4月1日現在

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
男性	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

女性	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
のべ利用者数	385	386	385	395	381	346	358	352	386	378	342	343
利用率	85%	88%	91%	91%	87%	82%	82%	83%	88%	87%	87%	79%

## 2. その他利用者情報

(障害支援区分と援護市の状況)

令和7年3月31日現在(人)

年齢	性別	共同生活援助
20歳～29歳	男	1
	女	0
30歳～39歳	男	0
	女	1
40歳～49歳	男	3
	女	1
50歳～59歳	男	5
	女	1
60歳～69歳	男	1
	女	1
70歳以上	男	0
	女	0
平均	男	49.1歳
	女	50.3歳

(障害支援区分と援護市の状況)

(人)

事業名		共同生活援助
障害支援区分	区分6	1
	区分5	5
	区分4	6
	区分3	1
	区分2	1
	区分1	0
	平均区分	4.0
援護市別利用者数		大阪市 6名 八尾市 7名 高槻市 1名

## ヘルパーステーションなか

### I 事業概要

ヘルパーステーションなかは、一人では外出が難しい障害者が、社会生活の上で必要不可欠な外出や余暇活動、社会参加のための外出をする際に、ヘルパーを派遣し外出時に必要となる移動の介助及び交通機関の利用支援や助言を行った。また、一人で医療機関に受診できない障害者に対し、ヘルパーを派遣し病院に付き添い、通院時に必要となる移動の介助や医師からの指示や内容を利用者にわかりやすく説明し、医師と利用者の橋渡しを行った。

#### 移動支援実績（延べ件数） （人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	4	5	5	4	4	2	5	4	5	7	2	2	49
延べ支援件数	7	6	6	5	5	3	5	5	7	9	2	2	62

#### 居宅介護実績（延べ件数） （人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	5	7	9	6	6	6	7	8	7	4	7	8	80
延べ支援件数	7	11	15	8	9	7	12	12	10	4	12	13	120

## 支援センターあまみ・ピカイチ・ホームズあまみ

## I 事業内容

○就労支援	就労継続支援事業B型 就労定着支援事業 日中一時支援事業 大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合(エル・チャレンジ)事業 松原市総合福祉会館清掃事業	定員 20 名
○生活支援	共同生活援助事業(グループホーム) 自立生活援助事業	定員 47 名
○事務	総務・庶務・労務・会計	

## 【概要】

令和6年度は、あまみエリアの組織体制として、所長・課長が支援センターあまみ・ピカイチとホームズあまみを兼務するという形をとった。これまで、拠点の垣根を超えた一体的な運営を基本とし、就労支援・生活支援、それぞれの業務特性を活かしながら、機能連携を日常的に進めてきたあまみエリアであったが、新しい組織体制での管理・判断・決定業務に充分に対応できたとはいえなかった。しかし、人材育成において就労・生活どちらの支援アプローチも必要となる複合的な課題を抱える利用者に対し、拠点横断的な支援チームを作り支援の質の向上を図ることができた。職員一人ひとりが、意欲と責任感を持ち、就労支援・生活支援に携わり、これまでにとらわれない新たなチャレンジにも取り組み組めたことは、成果として認められた。

経営面では、支援センターあまみ・ピカイチ、ホームズあまみとも、収入の増と経費の削減に取り組んだ。より一層、経営面での安定につながる成果となった。

支援センターあまみ・ピカイチでは大阪府教育センターの訓練生の充足に取り組んだ。目標値が達成できたのは8月だけだったが、年間を通し訓練に従事する障害者を受け入れることができた。利用者の豊かな暮らしを支える取り組みとして、ホームズあまみでは行事をいくつか計画していたが、周囲の催しがコロナ前に戻ったこともあり、育成会の一泊旅行、年3回のバスツアーなど外部の企画行事に参加するという形で、多くの余暇に取り組んだ。あらかじめ、年間予定として楽しみにされている利用者も多くみられた。ホームズの行事としては、1月1日に「ホームズ元旦の集い」を実施した。グループホームの世話人の採用時のオリエンテーションを拠点ホームにて職員が行い、新たな取り組みとして虐待防止研修を合わせて実施するなど、できるだけ不安を少なくして勤務を始めることができるよう丁寧な説明をこころがけた。

自立生活援助事業では、地域で一人暮らしをしているまたは、同居家族の支援を受ける

ことが難しいとされる4名の利用者に支援を行った。利用者の一人が病気のため逝去されるという悲しいできごともあったが、その利用者が入院中、ご本人から聞きとった「家に帰りたい」という気持ちに寄り添った支援を病院、訪問看護、保佐人、ご家族と協力して行うことができた。補聴器の店舗への同行、眼科・歯科への通院同行、健康診断受診後の精密検査の手配、また、レンタルベット、配食サービスなど、情報提供を含め必要な生活支援をおこなった。相談支援等、必要な福祉サービスへつなげることもできた。

## II 令和6年度重点課題

### ■就労支援

- 支援の質（利用者の満足度）向上
- 就労継続支援B型の経営改善
- エル・チャレンジ（大阪教育センター）の訓練生充足

### ■生活支援1～共同生活援助～

- 医療との連携と生活習慣病予防への取り組み
- 支援力向上
- 人材育成
- 利用者の暮らしを支える
- 感染症、自然災害に備えた危機管理対策の強化

### ■生活支援2～自立生活援助～

- 地域生活者の社会的孤立の防止と複合的支援

### ■生活支援3～松原市地域生活支援拠点等～

- 松原市緊急時居宅確保事業の実地

### ■事務

- 拠点間の物理的距離の解消
- 経費削減

## III 課題への取り組み

### 1. 就労支援

支援センターあまみ・ピカイチは、開設当初より変わらない思いで、「それでもやっぱり働きたい」をスローガンに「社会で働きつづけたい」と願う本人の思いに応える支援を行った。今年度は一般就労された方は0名だったが、1名が令和7年4月1日付けでの就職が内定している。

#### 【支援の質の向上】

利用者は、20代から70代の年代の方が利用され、時間をかけて就職を目指す利用者、あまみ・ピカイチをはたらく場としている利用者、高齢となり次のステージと一緒に考えていく利用者など多様なニーズに応じた無理のない働き方や、プログラムの提供、サービス変更も視野に入れた意思決定支援を実施した。また、生活面における支援ニーズにこた

えるため、必要な支援を行い社会資源、情報の提供を行った。

職員間で個別支援計画の共有を行い、個別支援計画に基づいた支援体制を構築した。

個別支援計画の共有（目標：年間 60 件@30 件×2 回）→45 件実施

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実施	2	4	6	1	1	8	4	5	2

	1月	2月	3月
実施	4	4	4

支援センターあまみ・ピカイチのプログラムは、小集団プログラムにより個別のニーズへの対応を図ってきた（漢字検定、グループワーク、パソコン教室、プラモ部、ガーデニング部、工作、その他）。また、月2回の休日開所に取り組み、余暇活動の充実を図った。「大阪プロレス松原大会」、ホームズと共催した「ピカイチフェスティバル」、「まつばらボッチャ大会」、「新春カラオケ大会」などを実施した。

生活面への支援も、年々増加している。癌の治療、糖尿病、精神状態の悪化、食事拒否、服装や清潔保持、親・本人の加齢など、それぞれ個別の状況に寄り添い、家族、医療機関等と連携し、家庭訪問、通院同行など事業所内の支援にとらわれず、ニーズに応じた支援を展開した。

#### 【経営改善】

支援センターあまみ・ピカイチより就職した1名が、就労して6か月の定着をむかえた。これにより、就労移行支援体制加算が取得でき今年度の収入増につながった。

稼働率の目標は年間平均110%であった。1日の平均利用者数が23名となるよう地域の関係機関と良い関係を築き、強みを発信していくなどの広報活動を行った。成果として104%を達成した。

報酬単価の平均工賃の算出方法が変更になり、令和6年度の平均工賃の月額目標は15,000円以上としていた。平均工賃は19,390円であった。松原市総合福祉会館の清掃、松原市公用車の洗車、エルチャレンジ短期清掃（東部水道除草作業・瓜破住宅除草作業・高野大橋住宅除草作業）を活用し、工賃の向上に努めた。

ピカイチ建屋の賃貸借契約について、賃料の交渉を行い、今年度も引き続き減額となった。また、時間外勤務の削減、慣例となっていた広告費の見直し、補助金の活用など、支出の削減にも努めた。

#### 【エル・チャレンジ（大阪教育センター）の訓練生充足】

○教育センター訓練生の充足（目標：午前2名、午後2名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
午前訓練生	1	1	2	1	2	1
午後訓練生	1	1	1	2	2	2

見学者数	0	1	0	1	0	1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
午前訓練生	1	2	2	1	2	2
午後訓練生	1	1	1	1	1	1
見学者数	1	0	0	1	4	1

## 2. 生活支援（共同生活援助）

ホームズあまみは、47名の定員に対し46名の利用状況であった。

46名の利用者のうち半数が一般企業で働いており、残り半数近くが障害福祉サービス事業所に通所されている。介護保険の事業所を利用されている方も3名となった。利用者のさまざまなニーズに対応するため、昼礼での情報共有・検討を行った。

### 【医療との連携と生活習慣病の取り組み】

利用者の高齢化とともに生活習慣病（血圧・コレステロール・中性脂肪）等を指摘される利用者が増えた。訪問看護とLINEで連絡体制をとり、定期的な医療連携会議を実施した。利用者個人の健康状態に合わせ、必要な生活情報を提供し、自己選択、自己決定のもと食事の改善や運動の機会を設ける取り組みを行った。医療面ばかりの取り組みになると、利用者の生活はせまいものになり、安心・安全は守られるものの、豊かな生活とは遠ざかってしまう、その難しいバランスをとるのに訪問看護の助言・指導は、力強い支えになった。

### 【支援力向上】

支援を停滞させないために昼礼での支援検討、情報共有を行い、ていねいなアセスメントに取り組んだ。本人と向き合う支援については、ニーズ整理表をもとに居心地の良い生活空間を利用者と一緒に考えることができた。

また、権利擁護の視点を大切に成年後見制度の活用もすすめた。成年後見制度新規利用者は1名。申請中の方1名となっている。

### 【人材育成】

ハローワーク・ジョブギア、HRドメインを活用し、人材の確保に努めた。世話人の定期的な個別面談は実施できなかったが、世話人定例会にて、各ホームごとに職員と世話人が対話し、悩みや困りごとを一緒に考える場とした。必要に応じて個人面談を行うこともあった。世話人定例会ではプチ研修や虐待防止研修を実施した。

### 【利用者の暮らしを支える】

毎月の巡回や面談の際に、利用者とのコミュニケーションを通じて、本人の望む生活の聞き取りを行った。担当者だけでなく、担当でない職員がホームを訪れる機会も設け、多くの視点で本人のニーズを整理する場を作った。それを、個別支援計画につなげていくのが、次の課題である。

### 【災害等に備えた危機管理対策の強化】

災害等の動きに留意しながら、今後の対応について情報収集に努め、利用者にはわかりや

すい説明を心がけた。年に2回の避難訓練や水害時の垂直避難の実施など、職員、世話人の危機対応意識を高めることに努めた。

災害に備え、拠点の備蓄の確認は行ったが、9月に予定していた各ホームに備えている備蓄品の確認を行うことはできなかった。

#### 【生活の質（利用者満足度）】

月	計画	実施状況
4月	お花見	
5月	ホームズ食事会	
6月	日帰りバスツアー	
7月	つな good ボウリング	7/7 つな good ボウリング 7/14 日帰りバスツアー
8月	ホームズ食事会	8/21 ピカイチフェスティバル
9月	ビンゴ大会	9/14 歯科検診 9/29 大阪知的障害者福祉大会
10月	スポーツフェスタ	10/12 フライングディスク（長居） 10/13 ボウリング（マグ住之江）
11月	日帰りバスツアー	
12月	ホームズ忘年会	12/1 日帰りバスツアー（ヤマサ醤油工場見学） 育成会一泊旅行 12/29～12/30（岡山方面）
1月	ふるまいぜんざい	1/1 ホームズ元旦のつどい
2月	ボウリング大会	
3月	日帰りバスツアー	3/16 日帰りバスツアー（京都）

### 3. 生活支援（自立生活援助事業）

自立生活援助あまみは、4名の利用者で事業を実施した。地域で暮らす人たちの困りごとは、いつ、起こるかわからないため、相談支援や地域のインフォーマルな資源の活用を支援した。ご本人の望む地域生活が送れるよう試行錯誤しながらではあったが、ご本人の意思決定を支援した。

## IV その他プログラムや特筆すべき事項など

### 【ネットワークへの参加】

- 松原市地域自立支援協議会定例会
- 松原市地域自立支援協議会全体会
- 松原市地域自立支援協議会勉強会「虐待防止について」
- 松原市地域貢献委員会
- 松原市地域貢献委員会実務者会議
- NPO法人 障がい者ねっとまつばら協力事業所
- ふれあい交流会議

- 松原市商工会議所
- 全国就業支援ネットワーク
- ジョブネット“トライアングル”

**【天美ドリーム会について】**

育成会の賛助団体として、あまみの家族会として、支援センターあまみ・ピカイチとホームズあまみの運営に協力・支援いただいた。

**【地域との交流・啓発】**

まつばらふれあいフェスタ、まつばらポッチャ大会、地域の芋ほり、大阪プロレス松原大会、などに参加した。

**V 年間行事、日課など**

**1. 日課（支援センターあまみ・ピカイチ）**

午 前		午 後	
9:00~9:30	出勤 着替え・準備	13:00~14:00	午後プログラム①
9:30~9:45	ラジオ体操 朝礼	14:00~14:15	休憩
9:45~10:45	午前プログラム①	14:15~15:15	午後プログラム②
10:45~11:00	休憩	15:15~15:30	片付け・終礼
11:00~12:00	午前プログラム②	15:30~16:00	清掃・退勤
12:00~13:00	昼食・休憩		

**2. 年間行事（支援センターあまみ・ピカイチ）**

目標：月2回⇒達成

月	計画	実施	人数
4月	・春の行事（お花見など） ・休日プログラム	4/13 ピカイチピクニック	利10名 全体11名
		4/20 八尾ポッチャ大会	利6名 全体7名
5月	・休日プログラム ×2回	5/3 天王寺動物園へいこう！	利10名 全体10名
		5/25 大阪府障がい者スポーツ大会（ボウリング）	利5名 全体16名
6月	・休日プログラム ×2回	6/15 ピカイチカラオケ	利9名 全体12名
		6/29 漢字検定模試	利6名 全体6名

7月	・ふれあい交流会 ・日帰りバスツアー —	7/7 つな good ボウリング	利 5名 全体 15名
		7/20 日帰りバスツアー①	利 7名 全体 21名
		7/27 まつばらふれあいフェスタ	利 6名 全体 6名
8月	・夏の行事（夏祭りなど） ・休日プログラム	8/21 ピカイチフェスティバル	利 15名 全体 31名
			利 名 全体 名
9月	・歯科検診 ・大阪大会	9/14 歯科検診	利 14名 全体 16名
		9/29 大阪知的障がい者福祉大会	利 3名 全体 6名
10月	・秋の行事（スポーツ大会など） ・休日プログラム	10/5 まつばらボッチャ大会	利 5名 全体 8名
		10/12 フライングディスク	利 4名 全体 17名
		10/13 ボウリング	
11月	・芋ほり ・休日プログラム	11/2 カラオケ大会	利 7名 全体 13名
		11/16 芋ほり	利 8名 全 11名
12月	・冬の行事（クリスマス会など） ・日帰りバスツアー —	12/1 バスツアー②	利 7名 全体 18名
		12/14 ピカイチクリスマス	利 11名 全体 17名
1月	・新年会 ・休日プログラム	1/11 新年会	利 10名 全体 12名
		1/25 新春カラオケ大会	利 8名 全体 10名
2月	・漢字検定 ・休日プログラム	2/15 漢字検定	利 6名 全体 7名
		2/22 プロレス観戦	利 7名 全体 12名
3月	・いちご狩り ・日帰りバスツアー —	3/16 日帰りバスツアー	利 10名 全体 21名
		3/22 いちご狩り	利 9名 全体 12名

## VI 事業概況

### 1. 支援センターあまみピカイチ

#### ①利用者の状況（就労継続支援B型）

【実績】目標：稼働率 110%

利用者／月		4	5	6	7	8	9
在籍者		30	30	29	29	29	29
当月入所者		0	0	0	0	0	0
当月退所者		0	0	1	0	0	0
継続 B	男性	21	21	21	21	21	21
	女性	9	9	9	8	8	8
	計	30	30	30	29	29	29
	利用率	113	112	107	108	103	100

利用者／月		10	11	12	1	2	3
在籍者		29	29	29	29	29	29
当月入所者		0	0	0	0	0	0
当月退所者		0	0	0	0	0	1
継続 B	男性	21	21	21	21	21	21
	女性	8	8	8	8	8	8
	計	29	29	29	29	29	29
	利用率	110	104	98	91	99	97

※令和6年度の平均稼働率：104%

②その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）

2025年3月31日現在（人）

事業名	就労継続B型	就労定着
障害 支援 区分	区分6	
	区分5	2
	区分4	9
	区分3	6
	区分2	2
	区分1	
	区分なし	11
援護市別利用者数	松原市 22 羽曳野市 2 大阪市旭区 1 大阪市平野区 1 岸和田市 2 富田林市 1 藤井寺市 1	

③年齢の状況

2025年3月31日現在 (人)

事業名		就労継続B型	就労定着
19歳以下	男	1	—
	女	—	—
20歳～29歳	男	7	—
	女	1	—
30歳～39歳	男	1	—
	女	2	—
40歳～49歳	男	3	—
	女	1	—
50歳～59歳	男	6	—
	女	4	—
60歳～69歳	男	2	—
	女	—	—
70歳以上	男	2	—
	女	—	—
平均	男	44.7	—
	女	40.7	—

④就労支援の状況

◎就職者の状況

・令和6年度 目標2名⇒実績0名

(令和7年4月1日付での就職内定者1名)

◎工賃実績 (令和6年度)

目標：工賃平均15,000円以上⇒達成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
工賃支給計	340,220	344,490	448,900	407,140	407,610	366,630
平均利用者数	20.8	20.8	20.8	20.8	20.8	20.8
工賃平均	16,356	16,562	21,581	19,574	19,596	17,626

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
工賃支給計	452,080	353,250	654,790	389,800	324,060	351,030
平均利用者数	20.8	20.8	20.8	20.8	20.8	20.8
工賃平均	21,734	16,983	31,480	18,740	15,579	16,876

※年間工賃総額…4,840,000円

※平均工賃…19,391円

## ホームズあまみ

### ① 利用者の状況

・グループホーム定員 46名/47名

空き：男性1名（堺ホーム）

2025年3月31日現在(人)

利用者/月		4	5	6	7	8	9
在籍者		46	46	46	46	46	46
当月入所者		0	0	0	0	0	0
当月退所者		0	0	0	0	0	0
GH	男性	41	41	41	41	41	41
	女性	5	5	5	5	5	5
	計	46	46	46	46	46	46
	利用率	97.6	97.3	97.5	97.7	97.3	96.7

利用者/月		10	11	12	1	2	3
在籍者		46	46	46	46	46	46
当月入所者		0	0	0	0	0	0
当月退所者		0	0	0	0	0	0
GH	男性	41	41	41	41	41	41
	女性	5	5	5	5	5	5
	計	46	46	46	46	46	46
	利用率	96.9	96.9	96.8	95.7	97.6	97.7

### ② その他利用者情報（障害支援区分と援護市の状況）2025年3月31日現在（人）

事業名	GH	
障害支援区分	区分6	0
	区分5	5
	区分4	17
	区分3	18
	区分2	4
	区分1	2
	区分なし	
援護市別利用者数	松原市	19
	大阪市	10
	河南町	2

	岸和田 2 高槻、枚方、門真、大東、東大阪、八尾、柏原、羽曳野、高石、大阪狭山、和泉、阪南、奈良県斑鳩町 各 1
--	---

③年齢の状況 (人)

事業名		共同生活援助
19歳以下	男	—
	女	—
20歳～29歳	男	1
	女	—
30歳～39歳	男	1
	女	1
40歳～49歳	男	12
	女	2
50歳～59歳	男	17
	女	2
60歳～69歳	男	7
	女	—
70歳以上	男	3
	女	—
平均	男	53.4
	女	46.2

④夕食提供利用状況 (人)

夕食提供／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
夕食提供対象人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
延べ人数	42	40	40	43	36	38	44	40	38	39	38	40

・温かい作り立ての夕食を囲んで団欒をしていただくことを通じて、サービス利用の必要があるにもかかわらず関係が付きにくい方などが徐々に支援につながっている。

支援センターい～な

I. 事業一覧

- グーテン (生活介護事業) 定員 30 名
- ホームズい～な (共同生活援助事業) 定員 29 名
- ホームズみのお (共同生活援助事業) 定員 20 名
- ホームズみのお (短期入所事業 併設型) 定員 5 名
- ホームズみのお (日中一時支援事業) 定員 5 名
- 支援センターい～な (計画相談支援・地域移行支援・地域定着支援・障害児相談支援)

利用者の状況 (3月31日現在)

<ホームズい～な>

利用者/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
空き	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
当月入所者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	男性	12	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12
	女性	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14
	計	25	26	26	26	26	26	27	27	26	26	26
	利用率	77.4	81.8	83.2	84.1	81.6	82.6	83.8	83.4	80.1	77.9	81.8

<ホームズみのお>

利用者/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
空き	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	1	1
当月入所者	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
当月退所者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
みのお	男性	9	9	9	8	8	8	8	8	8	9	9
	女性	8	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10
	計	17	18	18	17	18	18	18	18	18	19	19
	利用率	76.5	83.1	79.2	79.2	79.7	82.8	79.7	82.0	80.5	79.0	85.9

<ホームズみのお短期> 定員 5

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男性	6	11	8	10	6	9	4	3	6	26	11	4
女性	5	11	5	14	8	7	4	2	14	11	7	8
計	11	22	13	24	14	16	8	5	20	37	18	12
利用率%	7.3	14.2	8.7	15.9	9.0	10.7	5.2	9.3	12.9	24.6	12.9	7.7

〈ホームズみのお日中一時〉

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男性	5	3	1	2	6	6	2	2	2	0	1	1
女性	1	3	1	1	1	3	0	0	1	0	1	2
計	6	6	2	3	7	9	2	2	3	0	2	3
利用人数	3	4	2	3	2	4	2	1	2	0	2	3

〈生活介護 グーテン〉

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	50	50	50	49	50	50	50	49	49	49	49	49
当月入所者	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
生活介護	男性	25	25	25	24	25	25	25	24	24	24	24
	女性	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
	計	50	50	50	49	50	50	50	49	49	49	49
	利用率	102	106	108	112	108	111	107	104	100	104	103

※利用率(%)：当月の延べ人数÷(定員\*開所日数)

〈計画相談〉

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画相談													
計画相談総契約者数	79	78	78	78	78	78	75	75	75	75	75	75	75
(内障がい児数)	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
計画作成数(者)	10	7	4	9	8	6	6	8	0	8	3	71	71
モニタリング数(者)	23	13	27	22	14	23	22	11	28	20	12	27	242
計画作成数(児)	2	0	2	0	0	0	1	1	1	2	1	0	10
モニタリング数(児)	1	5	5	2	3	5	2	5	5	2	3	5	43
地域定着支援態勢確保(契約数)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
緊急支援(回)	1	1	1	3	1	0	0	1	1	1	3	0	13
基本相談	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3

<業務概況>

成人—66名（基本相談3名） 児童—9名（基本相談1名） 終了—63名  
 地域定着—1名（計画相談併用） 櫻井8名 上野41名 山川26名

◎その他利用者情報（3月31日現在）

事業名		ホームズ い～な	ホームズ みのお	短期入所	日中一時支援	生活介護
障害 支援 区分	区分 6	2	8			16
	区分 5	11	8			20
	区分 4	9	3			10
	区分 3	3	0			3
	区分 2	1	0			0
	区分 1 以下	0	0			0
援護市別利用者数		寝屋川市 1 豊中市 12 守口市 1 東大阪市 1 吹田市 1 交野市 1 門真市 1 箕面市 5 大東市 1 大阪市平野区 1 大阪市東淀川区 1	箕面市 6 豊中市 2 豊能町 1 吹田市 3 大阪市淀川区 1 大阪市大正区 1 大阪市浪速区 1 松原市 1 摂津市 1 高槻市 1 彦根市 1			箕面市 16 豊中市 10 守口市 2 交野 市 1 吹田市 12 寝 屋川市 1 門真市 1 大阪市淀川区 1 大 阪市大正区 1 大阪 市浪速区 1 高槻市 1 彦根市 1 松原市 1

Ⅱ. 事業概要

【全体】

支援センターい～な各事業の利用者は、65歳以上の高齢者が多い状況が続いていたが、若年層、中年層の新規利用者も増え幅広年代の方が利用している。「自分らしく生きる」をモットーに、利用者のニーズに応え、寄り添うことができる事業所を目指す。

まず、職員の人権意識を高めるため、利用者の意思決定支援や合理的配慮などの研修に取り組む意識啓発に継続的に努める。また、行動障害などの専門的な研修への職員への参加を促し、高齢者支援が中心だった事業所からより専門性が必要な利用者支援ができる事業所へ転換していく。それに伴い、高齢者・行動障害に特化した必要な専門家とのネットワークづくりにも取り組む。親の会や箕面市内の他の事業所とのつながりを持ち、地域のニーズの把握課題解決に向けた取り組みを始める。

事業所間の横断的な協力体制を強固なものとし、利用者・ご家族・支援員、看護師、栄養士が一丸となって、外部の関係機関と連携し、利用者が安心して暮らせるよう支援していく。今年度、

虐待、ハラスメント、リスクマネジメントの3委員会に加えてBCP(感染症・災害)の委員会を立ち上げ、継続的に取り組む。利用者、ご家族、職員みんなが笑顔になる場所を目指す。

### 【グーテン生活介護】

利用者の尊厳(人権)を大切に、誰もが「自分らしく生きる」を実現するために職員及び事業所の専門性を高めてより良い支援が提供できるよう、利用者の意思を尊重して支援を行った。10代~80代の幅広い年齢層で障害も多岐にわたり、集中的な支援が必要な利用者が増えてきた。それに伴い、昨年度グループの再編を行い、「集中的な支援が必要な利用者(スマイル)」、「個別支援が必要な利用者(にじいろ)」、「高齢の利用者、聴覚過敏など静かな環境が必要な利用者(ひまわり)」それぞれのグループの支援をもとにサービスを提供した。職員一人ひとりが主体的に考え、互いの状況を共有し、それぞれのニーズに対応できるようにチーム支援に取り組んだ。職員が専門性を高める研修を受講するだけでなく、事業所内での研修報告や、月に一度のケース会議などをおしてグーテンとしてスキルアップするように努めた。

### 【ホームズい〜な】

高齢であっても地域で自分らしく生活できるように(これは障害福祉だけの問題ではなく、日本の社会が抱える問題でもある)障害福祉サービスと介護保険サービスの併用や、地域の社会資源を活用しながら、本人と社会とのかかわりを大切に支援を行った。

社会資源(サービスを併用することなど)を活用することで生活の質を維持し、健康に暮らすことができるように努めた。グーテン利用者においては、特に、日中活動の中で充足されるニーズと、ホームでの安定した生活を継続していくためのニーズを整理し、事業所間で連携したサービスができるようにそれぞれの役割を共有した。

### 【ホームズみのお】

利用者の高齢問題に対する支援の課題、終末期のマネジメントなど、本人のニーズや家族の思い(意思決定)を大切に、地域資源を活用しながら一人ひとりが希望する生活を送ることができるように支援を行った。支援については介護の知識・技術の習得を継続的に行い、身体機能及び認知面の低下に合わせた支援について取り組んだ。また、高齢層から若年層への利用者の移行を進める中、障害も多岐にわたり行動障害の利用者支援についても障害特性の理解を進め、職員間で共有して支援を行うように努めたが、まだまだ十分とは言えず大きな課題となっている。

### 【短期入所/日中一時支援】

家族のレスパイトや自立に向けての支援として、短期入所、日中一時支援事業を実施した。短期入所については、従来の高齢者の利用だけでなく、グーテンや他事業所の若年層の利用者についても受け入れを行い、引き続き地域ニーズに応えられるように努めていきたい。

### 【支援センターい〜な(相談支援)】

相談支援事業(支援センターい〜な)は支援センターい〜なに拠点を置き、相談支援専門員2名体制で障害児者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、様々な相談に対応してサービスを提供した。家族や関係者、関係機関と連携し、利用者一人ひとりのニーズに寄り添った支援(意思決定支援)、具体的で実効性のある計画をともに考え実行した。

### Ⅲ. 令和6年度重点項目

#### 【全体】

#### 1. 人材育成と確保

##### ① 人材育成

支援センターい〜なとして今までに蓄積してきた高齢者支援のスキルやノウハウを法人の他事業所にも活用してもらえべく、事例やデータをまとめていく作業を行っているが、まだまだ時間を要する。高齢の知的障害者の支援を専門にしている大学教授等と連携し、職員の介助、介護の支援スキルの平準化を目指し、研修会を実施した。今後も定例で実施していく予定である。

毎年、グーテン・ホームズ1名ずつ強度行動障害の基礎研修と実践研修を受講し、現場での実践に努め、標準的支援が実現できるように取り組んだ。

利用者の変化に伴い職員構成の見直しを行った。慢性的な人材不足を解消するために採用条件の見直しを行い、継続したOJT、研修の機会を確保し、育成に取り組むことができるような方法について検討を始めた。支援センターい〜な全体で役職者及び相談支援専門員を中心とした研修を行うとともに、法人のアーカイブ研修の受講についてもできるだけ多くの職員が参加できるように機会を設けた。入職後からの育成計画についても再検討を行った。

職員との面談を必要に応じて実施し、それぞれの職員が抱えている悩みや困りごとについて、一緒に考えて解決にあたったが十分とは言えず、今後は困りごとの相談ばかりではなく、定期面談や日頃からの対話を大切にしていきたい。

##### ② 人材確保

支援センターい〜なは高齢の利用者中心に支援してきたこともあり、職員の年齢層も高い。計画的な世代交代と介護の有資格者の確保が急務である。あわせてホームズでは介護や行動障害のある人の支援ができる生活支援員及び世話人の確保に取り組んだが、まだまだ十分とは言えない状況である。

さらに求人募集を定期的、効率的に行うとともに職員のコネクションや地域の情報を集めるなどして職員の欠員が出ないように引き続き取り組んでいく。

#### 2. い〜な事業間の横断的な協力体制と連携

い〜な職員は、担当の事業だけでなく、相互に協力し、適切なサービスと丁寧な支援を提供するべくその都度調整を行った。

グーテンのケース会議にホームズ職員も参加することで、情報共有と利用者像の共通認識につなげるように計画したが今年度は実施できなかった。次年度は体制づくりを含み実行できるようにする。

グループホームの巡回や世話人代替などは、ホームズだけでなくグーテンも含めた全事業で対応していく。また、災害や新興感染症に備えて、実効性のあるBCPを作成すると共に、備品購入や食糧備蓄を計画的に進めるための体制づくりの検討を行った。

### 3. 地域との連携

自立支援協議会の参画及び地域生活支援拠点等事業の進行状況を確認し、行政と折衝を行い、家族・関係機関と連携を図り、地域の状況を把握すると共に支援センターい〜なの周知、発信に努めた。

### 4. 委員会の設置

過去にい〜な内でハラスメントや虐待事案が起こったことを重く受け止め、令和4年度より、正規職員全員がいずれかの委員会に所属する体制をとり3年目を終えた。これらの取り組みをとおり職員が事業所内での課題に気づき、センター間で共有できるようになってきた。今年度はこれらの取り組みを支援センターい〜なの全職員に周知すること、利用者にもわかりやすく伝えることに取り組んだ。

#### ① 虐待防止・身体拘束等適正化委員会(第2水曜日 11:00~12:00)

権利擁護と虐待防止を一体的に捉え取り組んだ。い〜な内で起こった虐待案件及び虐待につながるおそれのある案件を共有し、検証して虐待防止に取り組んだ。セルフチェックリストを実施して今後定期的な活用について検討した。当委員会で職員必須の虐待防止研修を実施した。利用者向けのポスターの見直しを行った。

#### ② ハラスメント撲滅委員会(第2水曜日 13:15~14:15)

ハラスメントが起こりうる職場環境について議論を重ね、よりストレスの少ない職場環境にするにはどうすればいいかを話し合った。そのような中で職員のメンタルヘルスへの配慮、休憩場所の確保などについて検討するために職員アンケートを実施した。

#### ③ リスクマネジメント委員会(第2火曜日 15:15~16:15)

ヒヤリハットの要因分析をして、事故を防ぐための取り組み、再発防止策を検討した。特にホームズではヒヤリハットが職員に浸透していないことの改善に努めた。取り組みの結果少しずつヒヤリハットやハットグッドの記載が増え職員が意識するようになってきている。さらに具体例を伝えることで否定的ではなく、肯定的な取り組みであることを身近に感じ、理解できるよう取り組んでいきたい。

### 【ゲーテン生活介護】

#### 1. 目的

自分らしく生きる

#### 2. 方針

誰もが自分らしく生きる社会を実現するために私たちが提供する最大の商品はソーシャルワークに基づく「自立支援」である。「自立」とはその人が主体的に自分らしく生きることを捉え、そのことは利用者(顧客)のニーズとも一致すると考える。

#### 3. そのために私たちが行うべきこと

・一人ひとりの意思を可能な限り理解して尊重する支援

- ・意思決定支援(形成、表出、決定)
- ・その人を取り巻く環境の理解
- ・これらを実現するための合理的配慮
- ・利用者(顧客)に認められる職員の確保、養成

#### 4. 目指す職員像

- ・ソーシャルワークの意味を理解して実践できる人
- ・育成会の役割を理解して実践できる人
- ・人権について正しく理解し、誠実な態度と正しい言葉遣いで支援できる人
- ・常に非言語を含むコミュニケーション能力について研鑽して実践できる人
- ・自分たちの仕事を理解して専門性を追求できる人

#### 5. 支援方法

- ・「集中的、継続的な支援が必要な利用者」スマイルグループ、「個別支援が必要な利用者」にじいろグループ、「高齢利用者と聴覚過敏ほか静かな環境を必要とする利用者」ひまわりグループの3グループによるサービス提供を行う。その際にエンパワメント支援、個別支援の視点を大切にす。
- ・職員も3つのグループに分けてそれぞれのグループのニーズを把握してそれぞれのグループの課題に主体的に取り組むとともにグループで協力して支援を行う。
- ・職員は、グループ別に支援に取り組むが、他のグループの状況も十分に理解してゲーテンとしてチーム支援に取り組む。
- ・各職種、関係機関、地域において多職種連携に努める。
- ・ICF、氷山モデル、PECS、動作法などの取り組みをとおして利用者理解に努め関係作りを図る。

#### 総括

今年度は、グループを3つに分けて支援を行ったが、退職職員が複数でたためグループの職員配置に偏りが生じ、利用者においても行動範囲や環境調整にかかる度合いにかなりの差が生じ再度グループ編成の見直しを行うことになった。

その結果、令和2年度に掲げたゲーテン5か年計画の見直しを行うことになった。計画では、若年層利用者を増やすことと活動場所の拡張を行うことになっていたが、若い世代への移行は予定どおりに進み現在50歳を境にした利用者の分布はほぼ1対1となった。しかし、拡張については、職員体制、利用者状況、報酬改定の要因について改めて検討した結果、定員30人でサービス内容の見直しを行うことになった。

1~5にそって支援、サービス提供を行った結果、職員の間で「自立支援」と「意思決定支援」の間を行ったり来たりする場面を目にすることが増えた。本来この2つは密接につながっているものだが、職員が適切な意思決定支援技術を身に着けていくうえで必要なプロセスと捉え、大いに悩みスキルアップにつなげていきたい。実際、本人の思いと親の思いの間で職員が悩みながらも本人の思いを大切にしながら支援を行っているというケースも複数ある状況である。

#### IV 日課

9:00	通所・バイタルチェックなど
10:15	ラジオ体操 朝礼 ウォーキング
10:30	午前の活動
11:45	健康体操 口腔体操など
12:00	昼食 休憩 歯磨き
13:00	体操
	午後の活動
15:30	活動終了 片づけ 終礼、帰宅準備
16:00	退所

#### V 活動

- ・エンパワメント・・・本人活動
- ・作業・・・検尿キッド封入、チラシ折り・組み、ペットボトルキャップの選別(リサイクル)  
バザー、園芸・畑、清掃、
- ・創作・・・絵画、造形、書道、手芸、さをり織り、お茶、お華、音楽
- ・健康・・・動作法、チェアロヴィクス、口腔体操、健康体操、リズム体操、歌体操、徒歩・散歩  
健康相談
- ・その他・・・日帰り旅行、「共に生きるコンサート」、季節の行事、調理実習、レクリエーション  
避難訓練

#### VI 年間行事

- 4月 8日 お花見
- 6月 8日 共に生きるコンサート
- 7月3～5日 グーテン書展(チカノバ)
- 7月 7日 セタ
- 9月21日 グーテン祭り
- 9月29日 大阪大会
- 10月21日 デイキャンプ(にじいろ)
- 11月 5日 海遊館(ひまわり)
- 11月 6日 USJ(スマイル)
- 11月11日 リニアモーター館(スマイル)
- 11月13日 須磨シーワールド(スマイル)
- 11月22日 ボウリング(ひまわり)
- 11月25日 ボウリング(ひまわり+スマイル)
- 12月 2日 王子動物園(ひまわり)
- 12月23日 クリスマス会(にじいろ)クッキーづくり
- 12月25日 クリスマス会(スマイル)調理実習→インフルエンザ感染があり延期

- 12月26日 クリスマス会(ひまわり)ケーキのみ→インフルエンザ感染があり延期
- 1月 6日～ 初詣
- 2月 3日 節分
- 3月18日～22日 グーテン作品展

### 医療相談

- ・精神科医による医療相談・・・毎月第3金曜日 午後
- ・歯科医師/歯科衛生士/管理栄養士による歯科口腔相談・・・偶数月1回 金曜日

## 【ホームズ】

### 1. ホームズい～なとホームズみのおの一体化による運営

箕面市広域福祉課に再三相談を行ったが、い～なとみのおの統合はできないということになった。しかし実態はい～なとみのおを一体的に運営することで、相互に関わる職員が増えて職員のスキルアップにつながり、ホームズみのおの慢性的な人材不足の解消、ホームズい～な緊急連絡対応もスムーズに行えるようになってきた。加えてホームズみのおのフロア間の協力、共有。ホームズ全体とグーテンとの協力、共有にも取り組み、課題である支援センターい～なの横断的運営にも取り組む準備を行った。将来的なグループホームの運営についても検討していく。

### 2. 高齢化に対応した住居の整備支援体制の構築

現状のグループホームでの生活を継続するにあたり、ハード面(階段、段差など)を含む環境において課題が生じた場合には、介護保険サービス等暮らしやすい生活環境への転居やホームの移転を行うように支援した。また、夜間支援体制の見直しを行い、必要に応じた生活支援員の配置を行ったが継続して取り組む必要がある。消防法への対応として利用者の日々の状況変化(障害程度区分)に伴い、避難困難者が多くいるホーム(消防法6項口)へのスプリンクラー設置に向けて動き出した。

### 3. 複数サービス利用に向けた調整 マネジメント

「箕面育成園あり方検討委員会」で検討された「親亡き後は、建物(施設)ではなくマネジメント」という考えから箕面育成園は施設入所からグループホームへ移行された。その考えにもとづき障害福祉サービスと介護保険サービスの併用や複数の事業所の利用など、身近な地域の社会資源を柔軟に活用してきた。必要なサービスは継続して利用できるように相談支援専門員、居宅介護支援専門員、ケアマネージャーなどとの連携を重視し、行政にはたらきかけを続けている。また、必要に応じて新規での介護認定や介護サービス利用についても進めている。また認知症などについて医療機関との連携は進んでおらず引き続きの課題である。

利用者の意思を十分に配慮したマネジメントの実現も大きな課題である。

### 4. 成年後見制度の活用

家族の高齢化が進む中で、利用者の意思決定が尊重され、資産管理等が滞らない生活ができるように、成年後見制度の活用を促進し、今まで以上に利用者の希望を明確にし、生活基盤を強固にしていくように努めた。

### 5. 感染症及び自然災害における実効性のあるBCPの整備

新型コロナウイルス感染症等新興感染症に対する対策の維持を図ると共に、自然災害(大地震:南海トラフ2035年±5年)に備え、BCP についてはより実効性のあるものになるように、避難訓練は形骸化しないこと、災害シミュレーションについてはよりリアルにということを改めて確認し、発電機のメンテナンスや備蓄倉庫の設置などの検討を行った。

次年度からは、委員会としての位置づけを明確にして取り組んでいく。

## 6. 積極的な広報活動

ホームズい〜な・ホームズみのおの事業内容(建物、支援体制、365 日利用可能等)及び空き住居等の家族が欲しい情報が届くようにホームページの充実を図った。

### 【支援センターい〜な 相談支援】

#### 1. 経営改善への取り組み

令和6年度の報酬改定により計画相談支援・一般相談支援共に相談支援専門員が事業所や医療機関、介護施設等との情報提供や連携を図る、というように本人を中心にした支援体制を図ることがより評価されることになった。また、通院同行など本人や家族の困りごとに寄り添うことも評価されることになった。相談支援の質の向上を図ることが評価され、収入増にも繋がることを踏まえ、相談支援の質の向上を目指す。

#### 2. 事業継続への取り組み

相談支援専門員を担うための要件として、経験年数や相談支援に継続して従事しているということがあり、そのため特定の職員が長く勤める必要があることから現状では相談支援専門員の人員補充は難しい。人員補充が難しいため相談支援専門員の後進育成に支障をきたしており、事業継続できるかどうか不透明な状況である。相談支援事業が継続できるよう、中長期計画に基づき、残り4か年で新しく相談支援に従事する職員を法人全体で育てていくことに寄与する。

支援センターさくら

○ 事業内容

I 生活支援部門		
1	ホームズさくら・ホームズなでしこ(グループホーム)	定員 83 名
2	短期入所・日中一時支援事業	
II 相談支援部門		
1	さくら相談支援事業	
2	北河内東障害者就業・生活支援センター事業	
3	大東市障害者インターンシップ事業	
4	大東市就労支援コーディネーター活動推進事業	
III 就労支援部門		
1	自立訓練(生活訓練)事業	定員 12 名
2	就労移行支援事業	定員 8 名
3	就労継続支援 A 型事業(フードサービス・ビルメンテナンス)	定員 10 名
4	就労継続支援 B 型事業	定員 10 名
5	就労定着支援事業	

I 生活支援部門

1 ホームズさくら・ホームズなでしこ(共同生活援助事業・併設型空床型短期入所事業)

【事業概要】

ホームズさくらは 15 ホーム(33 住居) 定員 64 名と、ホームズなでしこは 2 ホーム(2 住居) 定員 19 名と、全体で 17 ホーム(35 住居)、定員 83 名の GH 運営に取り組み、利用者一人ひとりの個別支援計画に基づき、地域で安心した生活が営めるように取り組んでいる。また、利用者の高齢化に伴い医療との連携を強化し、病気・けがなどの予防に努めるとともに、年齢に応じた安心で安全な質の高い支援の提供を行う。

【令和 6 年度の重点課題及び取組】

(1) 感染症や災害への対応力の強化

令和 6 年 4 月から「業務継続計画の策定等」及び「感染症の予防及びまん延防止のための対策を検討する委員会の実施等」が義務化されたため、さくらエリア内で各種委員会を立ち上げ、課題共有や自主訓練等に取り組んだ。

トヨクモ安否確認ツールにおいては、世話人(49 名)の登録がなかなか捗らなかったが令和 6 年度は世話人ミーティングを活用して積極的に登録を促し、45 名の登録が完了する。また、総務会議メンバーで構成する BCP ワーキングとも共同し、物品の確保(LED ランタン 28 個・簡易トイレセット 1000 回分・ソーラーパネル 19 個)を行い、非常時に備えた。令和 7 年 2 月 16 日(日)には、利用者を対象とした「防災について」のエンパ

ワメント講習を開催し、講師に大東市社会福祉協議会の方を招いて利用者にもわかりやすくご講義をいただいた。

「感染症の予防及びまん延防止の対策」については、令和7年3月4日ホームズみのお・い～なの岩田看護師を講師に招いて講習会と汚物処理等の実践を行い職員（20名参加）が参加した。

## (2) サービスの質向上に向けた取り組み

世話人（98名）の雇用管理をしながら、新たな世話人の確保や定着・育成に追われ、支援に費やす時間がほとんど取れていないという課題を解消するべく、令和3年度からホームズさくら・ホームズなでしこのバックアップ職員が一つになって組織できるよう体制を整えてきた。令和6年度は、利用者を対象としたエンパワメント講習会（スマホのトラブルあれこれ／防災について 計2回）の開催や、成年後見制度の利用申請（1名）、また低価格で栄養バランスの取れたヨシケイ朝食の導入（2ホーム）、空きGH（やまとGH・なでしこGH 2名）の入居者確保、トラブルが多発していたGHの環境整備等を行い、ご家族や後見人・関係機関等と連携を図りながら、利用者の個々のライフステージやニーズに応じて地域で安心した生活の実現に向けて取り組んだ。

## (3) 働きがいのある職場環境づくり

昨年度に引き続き世話人の雇用・労務管理は、所長・課長を中心とした体制で取り組み、令和6年度だけで79名の世話人応募があり、45名の面接に組み込み、内29名を採用した。また、新規世話人の入職時には、業務手順のレクチャーや障害理解を深めるための導入研修等を行い、新規世話人への育成・関係づくりにも積極的に取り組んだ。

世話人ミーティングについては、令和6年度は全17ホーム、計70回開催し、現場で支援にあたる世話人と円滑にコミュニケーションがとれるように取り組んだ。また、法人世話人研修ではR6.6/27（7名）と、R6.11/25（10名）に参加し、R7.2に開催したHさくらなでしこの人権研修では55名の世話人が参加。世話人・職員が互いを高め合える環境づくりに取り組んだ。

## (4) 変化する暮らしへの対応

物価の高騰が進む中、令和5年度から令和6年度にかけて利用料の見直しを行ったため、追加で利用料を徴収することはなく安定したサービスの提供に取り組んだ。

ホームズなでしこについては、平成17年の設立から約19年が経過し、外壁や配管・キュービクルの経年劣化等がみられたため適宜修繕・改修工事に取り組んだ。今後は計画的な補修工事を行い、より安全で快適な住環境づくりに取り組んでいく。

(1) 利用者の状況

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者		75	76	76	76	76	76	76	76	76	76	76	76
当月入所者		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当月退所者		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホームズさくら	男性	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
	女性	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	計	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62	62
	利用率	89.2%	88.3%	89.6%	89.4%	85.3%	88.4%	88.8%	88.9%	87.1%	85.3%	87.2%	88.0%
ホームズなでしこ	男性	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8
	計	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	15	15
	利用率	67.8%	70.6%	68.9%	69.7%	67.5%	70.7%	70.1%	70.3%	68.0%	68.5%	70.4%	74.1%
短期入所 併設型空床型	男性	1	2	1	2	1	2	1	2	2	1	2	1
	女性	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0
	計	1	2	1	2	1	3	2	3	3	2	2	1

※利用率(%)：当月の延べ人数÷定員\*開所日数

(2) 障害支援区分と援護市の状況(人)

事業名	なでしこ	さくら	
障害支援区分	区分6		
	区分5	2	5
	区分4	4	31
	区分3	6	12
	区分2	2	12
	区分1		1
	区分なし		1
援護市別利用者数	大阪市 4人 大東市 3人 寝屋川市 1人 枚方市 1人 交野市 1人 八尾市 1人	大東市 20人 四條畷市 7人 東大阪市 8人 枚方市 5人 寝屋川市 4人 門真市 3人 大阪市 2人 交野市 4人 八尾市 2人 守口市 2人 吹田市 1人 豊中市 1人	

	堺市 1人 門真市 1人 柏原市 1人	松原市 1人 堺市 2人
--	---------------------------	--------------

### (3) 年齢の状況

事業名		なでしこ	さくら
19歳以下	男	1	
	女		
20歳～29歳	男		
	女	1	3
30歳～39歳	男	2	8
	女	2	5
40歳～49歳	男	3	14
	女	2	5
50歳～59歳	男	1	22
	女	3	2
60歳～69歳	男		2
	女		1
70歳以上	男		
	女		
平均	男	39.1歳	48.6歳
	女	43.5歳	41.2歳

### (4) 主な行事関係

7/7 (日) つなgoodボウリング 27名

8/25 (日) エンパワメント講習会「スマホのトラブルあれこれ」 10名

10/12 (土) . 13 (日) スポーツフェスタ 卓球1名、ボウリング24名

12/8 (日) インフルエンザ予防接種 (集団接種) 利用者30名・職員5名

R7. 2/16 (日) エンパワメント講習会「防災について」 14名

## 2 短期入所・日中一時支援事業

### 【事業概要と6年度の取組】

短期入所では、将来に向けて自立生活をイメージした具体的な生活場面での様々な経験を通じ、必要な技術等の習得を支援すると共に、家族の入院等、緊急時の支援にも対応できるようサービスを提供している。地域の中で本事業が担う役割を理解し、一人ひとりへの丁寧な支援を実践するとともに、家族へのレスパイトケアの対応やさくら内他事業との連携による資源活用等、多様化する利用希望に応えられるように努めている。また当セン

ターの立地の良さや全室ホテル仕様の部屋（トイレと浴室が完備）は他の事業所にはない特色であることから、それらをPRするため相談支援事業所等への広報も行なってきた。

日中一時支援事業では、継続的な日中活動に参加することが困難な方や安心して過ごせる居場所として希望される方など様々な利用者ニーズに対して寄り添い、相談支援担当者とも連携しながら、日中活動の提供を行った。

令和6年度の宿泊延べ日数については、5年度と比較して1.6倍となった。2泊3日利用が1.03倍、3泊4日利用が1.28倍に増えるなど、できる限り多くのニーズに応えられる体制づくりに努める一方で、新規ケースの受け入れも行った。

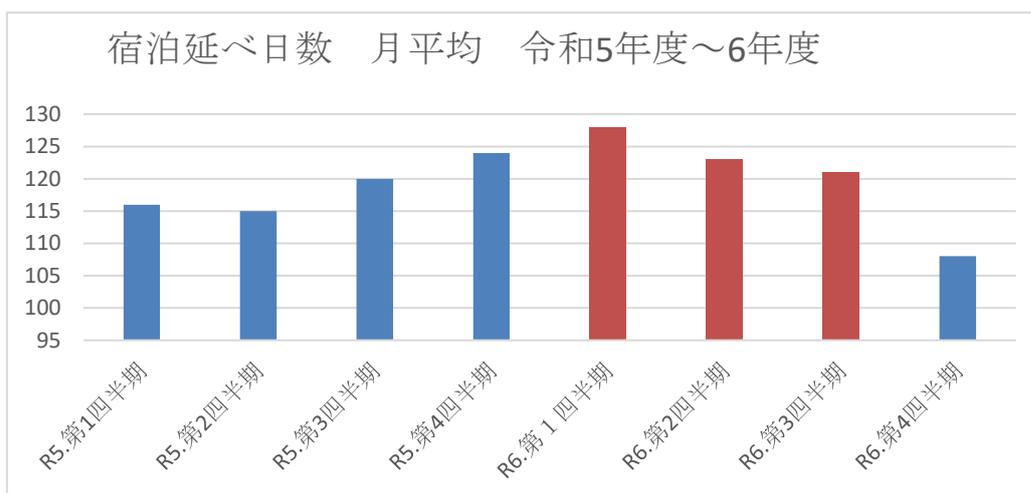
定員を本来の6名から原則1室1名の4名に、希望があれば1室2名ということで運営してきたが、利用者は圧倒的に1室1名を希望されていた。食事場所については利用者の意思を尊重することを重視している。

日中一時支援事業は、年度当初と比較して第4四半期の利用者減が顕著で、3月期は日帰り8時間利用は3分の1程となった。これは利用されていた方々の日中活動先の変更などによる生活の変化が大きく影響している。

物価高騰等により、利用料は、8月と1月に改定した。1月分からは、1577円から1,620円に変更した。（朝夕食760円、光熱水費490円、日用品費181円、シーツ189円）

◎ 居宅支援サービスの状況（令和6年度）

利用量\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日帰り4H	4	4	6	3	3	7	9	5	4	4	5	1
日帰り8H	17	21	19	16	16	12	17	16	8	11	6	6
1泊2日	80	92	96	84	74	88	76	78	74	70	86	60
2泊3日	27	18	33	24	24	36	33	30	27	18	12	21
3泊4日	12	8	4	8	12	8	12	12	8	20	16	16
4泊5日	5	5	5	5	5		15			5		
5泊6日												
6泊7日												
7泊8日												
緊急一時												
宿泊延べ日数計	124	123	138	121	115	132	136	120	109	113	114	97



## II 相談支援部門

### 1 さくら相談支援事業（特定・一般・障害児）

#### 【事業概要と6年度の取組み】

相談支援事業は、地域の中でその人らしい暮らしを続けていくために、利用者の権利擁護の視点に立ち、家族、支援者、行政等とネットワークを構築しながら行うものである。また利用者が本来持っている力（ストレングス）に着目し、利用者のエンパワメントを高める本人中心の相談支援となるよう、日頃から細心の注意を払いながら丁寧な相談支援の実践に心がけている。エリア内各事業とも有機的な連携を密にし、本人中心のマネジメント手法等の啓発や地域資源の連携強化等の実践、大東市障害者総合支援協議会（地域自立支援協議会）への参画から、さくら内の福祉サービス全般の質向上に良い影響を与えるなどの役割を果たす存在となっている。

その一方で経営課題の改善が常に問われており、育成会の全体方針を踏まえ、令和4年度以降さくら事業の整理・縮小化を進めることが重要となっていた。特に5年度からその動きは活発化し、計画相談のみの利用者をセルフプランもしくは終結していく方向で継続的に取り組んできたため、計画相談は現在 30 ケースに至っている。市町村との調整業務が増す中、6年度は上半期に2件の虐待案件と1件の暴力案件、下半期には自殺未遂案件など複数の支援困難事案が発生した。そのためさくら内での個別なスーパービジョン（主に支持機能、管理機能）を展開しながらも、地域の関係機関や成年後見人等と連携協力し長期にわたって丁寧な見守り支援を継続してきた。

また、6年度は、さくらの相談支援専門員が中央支援センターの相談支援業務を兼務することとなり、下半期には今後の相談支援のあり方を検討・調整することが急務となった。そのため事務局やホームズさくら・なでしこ、中央支援センターとの協議の結果、ホームズや中央支援センターの協力も得ながら計画相談や地域定着ケースの更なるセルフプランへの移行、基幹相談支援事業所等への移管などを進めることを決定した。

## ◎相談支援

種類／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談総契約者数	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
(内障がい児数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画案作成件数(者)	1	1	4	2	4	4	4	6	3	3	2	1
計画作成数(者)	2	0	1	3	2	5	5	4	5	3	3	2
モニタリング数(者)	7	9	8	3	4	3	3	4	8	6	5	4
計画案作成件数(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画作成数(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
モニタリング数(児)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域定着支援 態勢確保(契約数)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
緊急支援(回)	1	1	1	2	1	2	2	1	0	2	3	0
地域移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2 就労支援統括センター 支援センターみいーん

就労支援統括センターみいーんは法人内の就労支援を統括していくセンターとして、平成30年4月より大東市(住道)にて設置。

### (1) 北河内東障害者就業・生活支援センター事業

#### 【事業概要】

就業と生活を一体的に支援する本事業は、本年度においても、就業・生活相談の取り組みと、障害者雇用啓発という両面からその活動を行った。

令和6年度も引き続き、障害者の家族、就労支援事業所、企業担当者等を対象にした障害者雇用の啓発セミナーや勉強会開催に重点的に取り組んだ。

令和7年度に実施される就労選択支援事業について、各自立支援協議会で問題提起し対応策を検討する土壌づくりを行った。

#### 【令和6年度重点課題及び取組】

昨年度からの継続イベントとして、就労支援啓発セミナーを4回開催。保護者を対象として障害者雇用の啓発を行う内容を提供した。今年度の特徴としてはアーカイブは作成する物のリアル開催し、関係づくりを意識した。

また、ハローワーク門真、北河内西障害者就業・生活センターと共催で、雇用率未達成企業担当者等を対象に実施。企業における障害者雇用の取り組み発表や、社内理解の推進、生活支援との関わりなどをテーマに雇用管理の課題を共有、相談するための場となった。

教育機関との連携については北河内圏域の労働機関及び教育委員会と協力し、障害のある学生への支援の試みを話し合う会議を継続している。

### その他プログラムや、事業の特筆すべき事項など

- 働いている方との相談（定着支援相談）を定期的に開催し、就労状況の確認と共に余暇の支援を行った。（毎月1回土曜日または日曜日）定着面談に関しては対面面談の増加に加え、WEBや電話での相談も併せて多い状況である
- エンパワメント研修を上記の相談と同日で開催（隔月1回土曜または日曜日）し、勉強会やグループワークを行った（スマホ・ケータイ安全教室、ストレスマネジメント、悪徳商法対応、マイノート作成等）
- 就労支援啓発セミナー一年4回
- 企業向け勉強会・セミナーを年間4回
- 就労支援者向け研修3回
- ハローワーク門真・北河内西センターとの合同イベント2回

内 容	件 数 等	備 考
新規相談人数	76名	(内訳) 知 32 精 22 身 6 その他 16 (発達 14 高次脳 2 難病 0 その他 0)
延相談件数	4046回	
職場訪問による定着支援	213回	※実習支援、訪問付き添い、アフターケア等
就職者	76名	(内訳) 知 33 精 29 身 2 その他 11 (発達 10 高次脳 0 難病 1)

## (2) 大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合（エル・チャレンジ）

### 【事業概要】

日常清掃訓練においては、訓練生の就職に向けて意欲・技能の向上を目指す。そのため定期的に現場を訪問し、訓練生及びサポーターに対しての支援を実施する。

訓練希望者の減少が事業全体で課題となっており、スタッフによる訓練の啓発を地域福祉事業者に取り組みの趣旨説明を積極的に行った所、事業所のつながりも増え訓練生の参加も増えている。

短期清掃訓練においては、可能な限り訓練現場周辺地域の各支部に参加していただくとともに、就労意欲への足がかりとなるよう努めると共に、工賃が報酬単価に影響を及ぼすB型事業への作業提供を積極的に行った。

### 【令和6年度課題】

日常清掃に関しては、深刻な訓練性不足が年間通じて起こり、特に長期にわたり訓練生が不在の現場も数か所あった。特に、法人内の就労移行からの訓練生が激減している。概要で示したとおり、スタッフによる訓練の啓発を地域福祉事業者に行い、取り組みの目的や趣旨説明をした所、事業所のつながりも増え訓練生の参加も増えている。

短期清掃に関しては、例年と同程度の件数を受注出来たが、作業を受けてもらえる福祉事業所を探すのに苦労し、特定の事業所に作業が偏った。

### (3) 大東市委託事業

#### ①大東市障害者インターンシップ事業

##### 【事業概要】

大東市役所の業務等を通じて障害者の就労意欲を高め、就労後の職場定着の促進を図る。

##### 【令和6年度課題と取組】

実施啓発に課題がある。市庁舎内でDXの取り組みが始まり今後の業務切り出しに影響があると思われる。

引き続きSNSを活用し、啓発を行うことにする。

#### ②大東市就労支援コーディネーター活動推進事業

##### 【事業概要】

大東市の就職困難者に対してコーディネーターを配置し、相談を行う。

5年度は相談件数が年度末にかけて増えてきた。地域・ハローワークへの啓発も効果が徐々に出てきていると考えられる。

##### 【令和6年度課題と取組】

大東市からも相談者の減少を指摘される。対応として、市が関係するイベントにて特別ブースを出し、市の取り組みに協力しながら啓発を行う。年度末にかけて相談者が増えてきているが今後も地域への啓発を引き続き行いたい。次年度は、更にハローワークとの連携強化に力を入れ、実績を上げていきたい。

### (4) 訪問型職場適応援助者（ジョブコーチ）

##### 【事業概要】

職場適応援助者支援事業は職場に出向き、障害特性を踏まえた直接的で専門的な支援を行い、障害者の職場適応、定着を図ることを目的としている。

その支援は障害者本人だけでなく、事業所や障害者の家族も支援の対象としており、事業所の上司や同僚による支援（ナチュラルサポート）によってスムーズに移行していくことを目指す。

##### 【令和6年度課題と取組】

令和6年度は職員の退職もあり、12月に登録をして支援を開始した。

## III 就労支援部門

### 1. 多機能型6年度の重点課題と取組

#### (1) 育成会らしい「つながり」を再構築する（エリア内連携）

さくらエリア会議・さくら連絡会議・リスクマネジメント会議等10個の会議の定期開催を主にエリア内職員を対象に行う。4月は例年通り年度初日にエリア職員全体の会議を開催。6月からは、前年度のスワンププロジェクトの流れを受けさくらプロジェクトが、7月にはさくらフェスタ（11月3日）の会議がスタートした。また、今年度から新たに、BCP

(自然災害)、虐待防止・身体拘束の禁止、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止対策に関連した会議を発足させた。各所の主任、課長、所長で構成し、エリア内の研修企画運営も併せて行う。会議内容は、全職員への周知を図った。開催状況は以下のとおり。

会議名	開催日
BCP（自然災害）会議	7/17, 10/3, 1/15, 2/25
虐待防止・身体拘束の禁止に関する会議	6/28, 9/27, 11/6, 2/5
感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止対策会議	6/20, 8/26, 10/2, 12/16, 1/23, 2/25, 3/14

## (2) 職員の確保・育成・定着に力を入れる

さくら職員全体の実務経験に関しては、5年以上の職員が53%、3～5年未満が16%、3年未満の職員は31%である。(年度当初、短期入所担当者含む)そのため、職員の育成、定着とモチベーションの維持のため計画的に研修を実施し、支援の質向上にもつなげるようにした。5月には日中系職員を対象に「エリア指定正職員」に関する希望調査を実施し、研修希望アンケート実施のほか研修情報の提供も併せて行った。

実施研修は法人研修（人権研修、1月の冬期研修）の他は以下のとおり。

研修別	主な研修
府研修等	サービス管理責任者等基礎研修（主任）、相談支援専門員現任研修（主任）、大阪府虐待防止権利擁護研修（所長）、大阪府感染症対策研修（主任）
スキルアップ研修	中堅職員・管理職のためのマネジメントとリーダーシップの基礎講座（課長）、経営に活かす戦略的会計講座（課長）、会計管理担当者研修（課長、事務）、職場適応援助者養成研修（支援員）、大東市社協地域貢献委員会研修会「災害時の取り組み」（主任）、わかりたすくセミナー「強度行動障がいの現状、そしてこれから」（支援員）
講師派遣等	就労支援啓発セミナー「育成会職員が語る就労支援」（課長） わかりたすくセミナー「委託相談・基幹相談とは」（主任）、生野支援学校主催事業所合同説明会（主任）、サービス管理責任者等基礎研修演習ファシリテーター（課長）、就労支援啓発セミナー「これからどうなる就労選択支援事業」（課長）、北河内就業・生活支援センター主催就労支援セミナー&面接体験会（課長、支援員）
地域連携等関係（人材派遣等）	大東市障害者自立ネットワーク「虐待防止研修」（所長）、大東市子育てフェスティバル（大東市地域貢献委員会）（支援員）、大東市地域貢献委員会フェスタ（所長）、スポーツフェスタ（支援員）
法人階層別研修	2年目フォローアップ研修1名 3年目スキルアップ研修1名「意思決定支援」 4年目、5年目スキルアップ研修1名「OJTの手法と実践の工夫」

	6 年目以上スキルアップ研修 2 名「金沢市の先駆的な取り組み」 「親の高齢化」、主任研修 4 名、所長・課長研修 2 名
--	--

**(3) 経営を改善、安定させる**

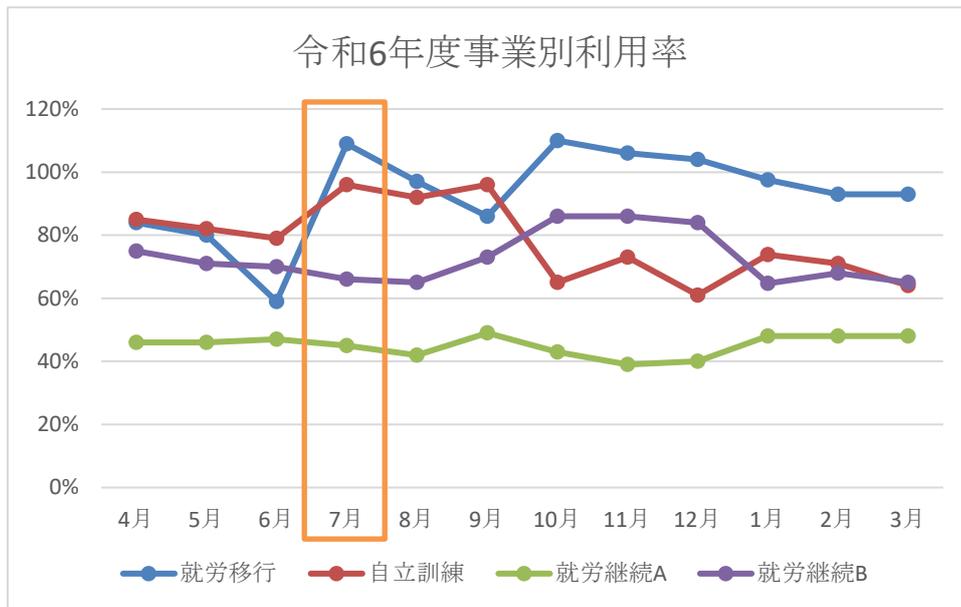
①実習は支援学校等の 8 校から 40 名、就労アセスメントは 5 名を受け入れた（入所前実習除く）。受け入れ校は以下のとおり。

交野支援学校四条畷校、むらの高等支援学校、緑風冠高校、寝屋川支援学校、東大阪支援学校、生野支援学校、守口支援学校、富田林支援学校

②見学は希望者があれば随時対応をするとともに、昨年度同様に 7 月、8 月、12 月に「さくら見学会」を開催した。(7/25, 8/29, 12/25)

7/25	8/29	12/25
16 名。内 6 名が体験実習にも参加	14 名。内 5 名が体験実習にも参加。さらに枚方なぎさ高校 1・2 年生 15 名参加	13 名。内 10 名が体験実習にも参加。車椅子使用の重度障害の方の体験受入れも行う（B 型）

③多機能型事業所としての動きとして、定員を 7 月に変更した。(49 名→40 名)



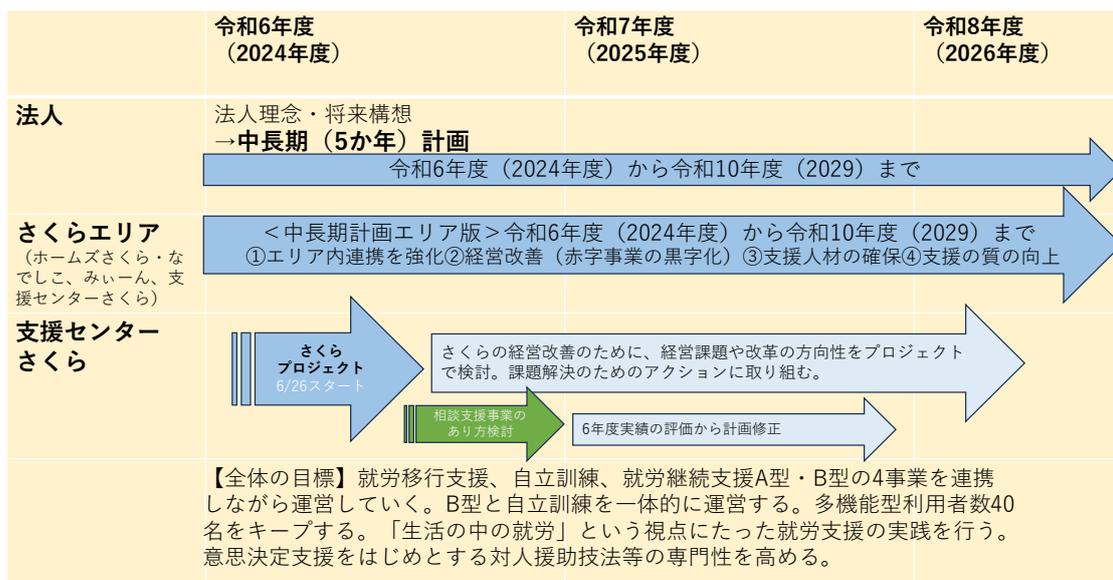
就労移行の 14 名を 8 名に、自立訓練の 15 名を 12 名にした。就労移行の大幅な変更の背景には、就職による退所が一因としてあった。就職者は昨年度の 10 名に続き、6 年度も好調で 9 名を輩出した。離職者が出ることなく定着率は年度末も 100%を推移している。一方短期入所の月平均宿泊延べ日数は、前年度比 1.6 倍だった。

④広報活動は、さくらのホームページや Instagram (スワン) での情報発信、相談支援事業所の個別訪問や定例会議での宣伝活動、支援学校主催の合同説明会や支援学校発信のホームページ、大東市障害者自立ネットワークのホームページへの情報提供、障

害者の学校卒業後等の「学びの場」ホームページ（大阪府）にさくらの「自立訓練」情報の公表（10/29）などに取り組んだ。平行して見学会の案内や利用者募集のチラシを関係機関に送付した。Google の検索上位にするための取り組みも行った（みいーん協力）しかし、多機能型事業に関して5月以降の新規利用につながったのは就労移行の1名だけだった。（さくら内の利用変更除く）

- ⑤さくらプロジェクトを始動させた。5年度のスワンプロジェクトの動きを継承し、就労継続支援A型とB型の収支の黒字化推進（スワン売り上げアップ、地域連携活動、利用者の定員充足、さくら内協力連携等）の経過を踏まえながら、6月に立ち上げた。多機能型事業所としてのさくら経営の安定化をより推進するため、さくらの経営課題を明らかにしつつ、改革の方向性や具体的な課題解決のためのアクションの進捗管理を目的とした。プロジェクトメンバーは支援センターさくらの所長、課長、主任2名のほか、法人事業部長1名、同課長1名、事務局1名で構成し、6年度は6/26, 8/7, 9/18, 10/22, 1/21の計5回開催した。多機能型事業所の現状を多角的に分析する中、8月に日中事業の事業計画（3か年計画）の提案を行った。6年度から始まった法人の「中長期計画」（5か年計画）との関連性は以下の図のとおりである。

### さくら事業計画（3か年計画）



- ⑥休日開所は以下の通り実施した。

(名)

休日開所日	内容	参加者数
4/20	ビッフェランチ（四條畷イオン）	14
5/18	あべのハルカス展望台に行こう	8
6/15	しゃぶしゃぶ食べ放題	6
7/20	おしゃれしてデザートを食べよう	8
8/17	ピザ作り&ボーリング	10
9/21	焼肉を食べに行こう	13

10/19	プラネタリウムを見に行こう	5
11/16	有馬温泉（足湯体験、釣り体験）	7
12/21	ホテルでスイーツ&ランチビュッフェ	9
1/11	初詣に行こう（大阪天満宮）	5
2/15	インド料理を食べよう	4
3/15	お昼を食べて大阪城公園に行こう	6

### ⑦質の良い支援を行う

前出（2）で触れた研修以外では、以下の内容について職員会議等の時間に、職員と情報共有し、利用者主体の支援者意識の醸成に努めた。

5月	中長期計画	12月	社会福祉の仕事の意義
7月	合理的配慮	1月	障害者総合支援法
8月	防災	3月	わかりやすい情報提供
11月	意思決定支援		

## 2 自立訓練（生活訓練）事業

### 【事業概要と6年度の取組】

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者に対して標準2年間にわたって自立訓練（生活訓練）を行い、生産活動その他の活動の機会を通じて、社会生活に必要な知識及び能力の向上のために必要な支援を提供している。

本事業は「将来自立して働きたいけど何をしたら良いかわからない」、「就労移行の2年だけで就職を目指すのは不安である」、「仕事以外の事も学び経験を積んで社会に出たい」という利用者やご家族のお声などから平成26年に誕生したもので、さくらでは、利用者のエンパワメントに重点を置いた支援を提供している。

利用者自身が自分の人生の主体者として様々な支援を受けながら「自分で考え、自分で決められる」力の獲得を目指して支援を提供している。とりわけ支援学校等の卒業後から利用されるケースが多いことを踏まえ、活動の様々な場面において、できる限り小さな成功体験を積み上げられるよう目標設定に配慮することや、取り組みの結果だけでなく、その取り組み姿勢や過程を含めて評価することに留意し、利用者の自尊感情や自己肯定感の醸成に繋がる支援の提供を心掛け、その年代に合わせた多様な社会生活体験等の機会提供に努めた。

加えて、さくら内の就労移行支援事業に移行する利用者については、自立訓練事業で積み上げた支援の内容を丁寧に引き継ぐとともに、必要に応じて、事業を横断して直接支援に関わる等、連続性のある支援の提供を心掛けた。

令和6年度のプログラムは、コミュニケーションプログラム、身だしなみプログラム、運動プログラム、ヨガ、生活プログラム、SLT、調理実習、軽作業などのほか、利用者ニーズに応じた個別プログラム※ を実施した。

また長期に休んでいる方に対しては、利用者の特性を踏まえながらご自宅への「訪問支援」を行ない、買い物支援や相談支援機関への同行支援などを行なった。

月	生活プログラム	SLT
4	遅延証明書の出し方	さくらオリエンテーション
5	自分史/ライフプラン	表情について
6	警報について	メモ練習・カタカナ禁止ゲーム
7	天気と服装	①わからないことを聞く②伝言ゲーム
8	朝ごはんを食べよう	①お盆の映画観賞会②健康診断
9	調理実習メニュー買い物リスト作り	健康診断の準備・病院の受診をどうするか
10	お金の計算・支払いをしよう	道を調べよう(Google マップ)
11	スーパー買い物/調理実習	予定を立てよう
12	健康なカラダ作り/生活スキルを身につけよう	コインランドリーに行こう
1	お金の管理/お小遣い帳をつけよう	お茶の飲み方
2	人生ゲーム/ひとり暮らしの家と、職業を決める	①ダンボールを持ってみよう②履歴書を書こう
3	1年のふりかえり	1年のふりかえり

<個別プログラムの例>

コグトレ（社会面、学習面、身体面への包括的支援/認知トレーニング）、お金の計算、パソコンのタイピング練習、ワード入力、小遣い帳練習、清掃プログラム、漢字練習、就労移行実習、スワン実習、個別懇談（モニタリング会議）前の事前面談等

### 3 就労移行支援事業

#### 【事業概要と6年度の取組み】

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者に対して標準2年間にわたって就労移行支援を行い、生産活動その他の活動の機会を通じて、就労及び社会生活に必要な知識及び能力の向上のために必要な支援を提供した。

さくらでは、就職率の向上を目指すため、就職に向けての準備・訓練として、さくら内での各種プログラムの内容の充実に加え、大東市内での企業実習やインターンシップ事業等を通して得られたアセスメント結果を本人へフィードバックし、納得を得たうえで個別支援計画に反映するというサイクルを回すことで個々のスキルと共に自己理解の積み上げを行っている。また、利用者と企業のミスマッチ低減にあたり、職場定着を見据えた環境整備に留意し、雇用前の職場実習やトライアル雇用にも積極的に取り組んだ。

また、可能な限り利用者やその家族の希望に沿う就労支援を意識し、就職先を見つける

ことのみを重要視するのではなく、利用者ニーズに応じた働き方を形にするべく、懇談会（モニタリング会議）の機会を一つの意思決定支援であること、日々の就労支援の積み重ねが利用者にとって大きな人生の選択につながる支援だということを大事に考え、利用者が就職後もやり甲斐を感じて働き続けられるように、支援を行っている。

## ◎日課

### 就労移行支援事業

午 前		午 後	
9 : 00	さくらに通所	13 : 00	作業・実習プログラム（15分休憩有）
9 : 30	体操・朝礼	15 : 45	清掃
10 : 00	作業・実習プログラム	16 : 05	終礼・帰宅
12 : 00	昼食（食堂）		

### 自立訓練事業

午 前		午 後	
9 : 00	さくらに通所	13 : 00	プログラム・作業（15分休憩有）
9 : 30	体操・朝礼	15 : 30	清掃
10 : 00	プログラム・作業	16 : 00	終礼・帰宅
12 : 00	昼食（食堂）		

## ◎利用者の状況

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	43	39	38	38	38	38	38	38	35	35	34	35
当月入所者	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
当月退所者	2	4	1	0	0	0	0	1	2	0	1	7
就労移行	男性	12	9	8	8	8	8	8	7	8	8	9
	女性	3	2	2	2	2	2	3	4	3	2	2
	計	15	11	10	10	10	10	11	12	10	10	11
	利用率	84%	80%	59%	109%	97%	86%	110%	106%	104%	98%	93%
自立訓練	男性	9	9	9	9	9	9	7	7	7	7	6
	女性	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	計	13	13	13	13	13	13	11	11	11	11	10

	利用率	85%	82%	79%	96%	92%	96%	65%	73%	61%	74%	71%	64%
就労継続A	男性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	女性	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3
	計	5	5	5	5	5	5	5	4	4	5	5	5
	利用率	46%	46%	47%	45%	42%	49%	43%	39%	40%	48%	48%	48%
就労継続B	男性	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3
	女性	8	8	8	8	8	8	8	8	7	6	6	6
	計	10	10	10	10	10	10	11	11	10	9	9	9
	利用率	75%	71%	70%	66%	65%	73%	86%	86%	84%	65%	68%	65%

※利用率（%）：当月の延べ人数÷（定員\*開所日数） 就労アセスメントの方は含めておりません。

※就労定着 利用者は入退所に含めていません。

### ◎障害支援区分と援護市の状況

事業名		就労移行支援	自立訓練	就労定着支援
障害支援区分	区分6			
	区分5			
	区分4	1	1	
	区分3	6	1	3
	区分2	2	1	6
	区分1以下		7	7
援護市別利用者数	大東市 2 四條畷市 1 寝屋川市 2 枚方市 1 東大阪市 1 大阪市 2	大東市 3 寝屋川市 1 枚方市 3 東大阪市 1 大阪市 2	大東市 3 四條畷市 2 寝屋川市 3 枚方市 3 門真市 2 東大阪市 2 大阪市 1	

### ◎年齢の状況

事業名		自立訓練	就労移行	就労定着
19歳以下	男	3		
	女	3		
20歳～29歳	男	2	7	12
	女	1	1	3

30 歳～39 歳	男	1		
	女			
40 歳～49 歳	男		1	1
	女			
50 歳～59 歳	男			
	女		1	
平均	男	22.8 歳	26.5 歳	26.0 歳
	女	19.3 歳	39.5 歳	24.3 歳

◎令和6年度平均工賃（就労移行・自立訓練）

支給月	就労移行支援	自立訓練
4 月	11,391	5,517
5 月	9,188	5,280
6 月	10,755	6,314
7 月	9,164	5,356
8 月	11,189	4928
9 月	12457	6104
10 月	13064	4442
11 月	9879	3413
12 月	10496	5547
1 月	12174	5667
2 月	8408	3940
3 月	10371	5460
年間平均	10,713円	5,164円

4. 就労継続支援A型  
事業（フードサービ  
ス・ビルメンテナン

ス)

【事業概要と6年度の取組】

スワン店舗でのパン製造及び販売、接客業務又は出張による販売業務、大阪府福祉情報コミュニケーションセンターや緑風冠高校での清掃事業等、雇用契約に基づく就労機会の提供を通じ、働く喜びや社会との繋がりを実感できる場の提供を図るとともに、家と職場の往復だけでなく、生活を楽しむための余暇支援を通じて、社会経験を増やし、コミュニケーション力の向上や上手なお金の使い方を身につけるなど、自分らしい豊かな生活の実現にむけた支援を提供した。スワンベーカリーは、創業26周年で、大東店は8月に19周年を迎えた。スワンとともに職業人生を着実に歩んでいるA型利用者の平均年齢は37歳で、就労経験年数が最も長い方で16年になるが、6年度はようやくA型利用者の職員登用に向けて前進した1年となった。

6年度のトピックは以下のとおり。

- ・ 4/30 A型スコア表等を公表。(ホームページ)スコア表 200点満点中 175点(自己評価)  
地域連携活動実施状況及び利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書も公表。
- ・ 5/24 障害者就労施設の工賃向上に資する生産設備の導入モデル事業の申請  
→選定結果 不選定。府内総合順位 21 事業所中 3 位。総合評価点 13 点(18 点満点)
- ・ 6/26 北大阪労働基準監督署による労働条件に関する調査の実施
- ・ スワン第 13 回新商品コンテスト 総菜パン部門に大東店が優秀賞に輝く  
「トレコンパニーニ～きのこベーコン～」
- ・ 7/2 株式会社スワンによる監査
- ・ 7/8 大東市子ども食堂ネットワーク会議に出席
- ・ 8/29 感謝祭 19 周年祭
- ・ 9/14 鎌倉投信主催の受益者総会(京都市)で販売
- ・ 9/20 は USJ (大阪市)の従業員食堂内で販売。
- ・ 10/20 交野いきいきマルシェおりひめの駅パンマルシェに出店
- ・ 10/21 韓国のリハビリテーション施設協会の団体が大東店来店 ハングル語資料配布
- ・ 10/26 社会福祉法人池田芽ばえ福祉会で外販
- ・ 11/17 しらさぎまつりに出店 ・ 12/5 アマゾンジャパン大東 FC で外販
- ・ 1 月から御堂筋ふれあいバザーに出店(大阪ガスネットワーク)
- ・ 定例の外販先は以下のとおり。

大東市内(野崎工業、川村義肢、中北製作所)、支援学校(枚方支援、交野四条躰校、守口支援、寝屋川支援)、大阪市内(がんセンター、大阪府立障害者自立センター、ヤマト住之江、双日、JFE、アート引越、ゆうけい(住吉区特養)、NTT 東天満・本町・北浜・交野、支部連)、守口市(ヤマトシステム)

## 5. 就労継続支援B型事業(フードサービス・ビルメンテナンス)

### 【事業概要と6年度の取組】

スワン店舗でのパンの製造及び販売、接客業務又は出張による販売業務に加え、さくら管理棟会議室やトイレ等の清掃、公共の施設などの日常清掃及び短期清掃の場面提供を通じて、働く喜びや体力の向上、社会との繋がりを実感できる機会を提供するとともに、自分らしい豊かな生活の実現にむけた支援を行なっている。

5 年度から計画的に利用者定員の充足を進めていくという方針に切り替えて現在に至っている。利用者は 10 代から 40 代までの幅広い年齢層で、フードサービスの業務に偏らず、ビルメンテナンス業務(主に清掃)にも作業体験の機会を計画的に設けた。また、9 月に工賃規定を新たに作成し、利用者お一人おひとりのストレングスを評価しながら、利用者の変化や成長を見守るとともに、工賃向上のための工夫を事業所としても積極的にチャレンジしている。

さくら内連携では、就労移行支援事業や自立訓練の利用者の実習受け入れを積極的に受け入れているが、下半期は「さくら事業計画」に基づき、就労移行支援や自立訓練と更な

る連携を目指して、作業棟レイアウトの変更や作業面での事業間連携、就労支援プロセスの確立に向けての意見交換、調整が活発化した。

◎障害支援区分と援護市の状況 (人)

事業名		就労継続支援A型	就労継続支援B型
障害支援区分	区分6		
	区分5		
	区分4		3
	区分3	2	3
	区分2		2
	区分1以下	3	1
援護市別利用者数		大東市3 大阪市1 吹田市1	大東市3 大阪市3 八尾市1 寝屋川市1 堺市1

◎年齢の状況

事業名		就労継続支援A型	就労継続支援B型
19歳以下	男		1
	女		
20歳～29歳	男	1	1
	女	1	2
30歳～39歳	男		1
	女	1	2
40歳～49歳	男	1	
	女	1	2
平均	男	37.5歳	25.7歳
	女	36.7歳	32.2歳

◎平均工賃月額

月	4	5	6	7	8	9
工賃総額(円)	181,401	187,274	175,057	191,110	178,915	170,277
延べ利用者数	165	156	149	147	143	138
開所日数	21	21	20	21	18	19

月	10	11	12	1	2	3
工賃総額(円)	184,800	231,627	227,163	203,857	162,212	175,306
延べ利用者数	190	181	167	123	122	136

開所日数	22	21	19	18	18	21
------	----	----	----	----	----	----

月	計
工賃総額(円)	2,268,999
延べ利用者数	1,817
開所日数	239

平均工賃月額  
24,879 円

## 6. 就労定着支援事業

### 【事業概要と6年度の取組】

就労移行支援などを利用して一般就労へ移行した障がい者で、就労に伴う環境の変化により生活面で課題が生じている人に対し、雇用された企業などで就労の継続を図るため、企業・自宅等への訪問や障がい者の来所により必要な連絡調整や指導・助言等を行うものである。

事業利用中から退所後の本人の生活を意識し、当該事業に対する理解促進の機会を設定して、途切れない、分かりやすい、その人に合ったネットワークの構築に努めた。また、利用者及び家族が支援の必要性を理解した上で事業利用に繋げ、安定した就労継続のサポート体制の整備を心掛けた。

実施に当たっては、就職後半年以降は就労定着支援で毎月1回の訪問支援等を行い、職場内でのナチュラルサポートを目指して、就労先担当者との情報共有を行うとともに、フォローが必要な場合は障害者就業・生活支援センター等とも連携して支援を提供した。令和6年度利用開始は9名で、月平均の支援実績は11.8人であった。

### 【月別支援実績】

利用者／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就 労 定 着	男性	7	7	7	7	8	8	9	11	12	12	12	12
	女性	2	2	2	2	2	1	1	2	3	4	4	4
	計	9	9	9	9	10	9	10	13	15	16	16	16

## IV さくらエリア横断的な取り組み

### (1) 障害者虐待の防止

6年度の「虐待防止研修」は、前出(1)の虐待防止・身体拘束の禁止に関する会議の主任が中心となって研修を企画し、さくらエリア職員を対象に研修を実施した。開催は12/3, 12/10, 12/13, 12/20の4回。

短期入所の担当職員に対しては、職員面談と個別研修をセットし、5年度に使用した以下の資料を再度用いて実施した。虐待の芽チェックリストの内容一つひとつに対して説明を加えながら、対話型コミュニケーションの手法を用いて、管理者と支援者の1対1で行なった。資料：「わすれてもおもいだす、とどめおく」、「虐待の芽チェックリスト」、参考

「障がい者虐待対応状況と大阪府の取組みについて」

## (2) 業務継続に向けた感染症や災害への対応力の取組みを強化する

感染症対策として、さくらエリア職員対象に、感染症予防対策研修会を開催（3/4）自然災害対策関係は、前出（1）のBCP（自然災害）会議が研修を企画した。日中事業所、グループホーム、相談支援事業所用の3パターンで、個人ワーク形式の「災害シミュレーション」を実施。（3/4-3/14）。地震発生後の初動対応を考えることをねらいとした。

避難訓練は、7/24と1/29に実施。実施にあたり地域の自治会や近隣の保育園や老人ホームに近況なども含め事前説明を行なっている。7月は、通常の地震による避難訓練、消火訓練消防署への通報訓練に加え、水難確保計画に基づく避難誘導訓練も行う。1月は同日消防署による立入検査があった。さくらの防災対策の備品として、保存水、缶入りパン、トイレの凝固剤、LED懐中電灯を追加購入した。

トヨタの安否確認サービスの月1回の「一斉訓練」のほか、震度5以上の地震が全国で発生した際の「安否確認メール」（6年度は7回発信）の発信日に合わせて、職員への周知に努め、意識醸成を図った。8月～9月の台風10号（迷走台風）に関してはさくら連絡網で利用者、職員に周知し、9/2には被災状況報告（WAM NET）を行った。

## (3) 利用者が安心して安全に活動できる環境の確保

設備の劣化等による問題が随所で発生し、年間を通してホームズさくら・なでしこと適宜情報共有し、協力して対応するようにした。施工状況は以下の通り。

月	主な工事の実施状況
4月	作業棟空調室内機23機の消耗部品交換
5月	樹木の伐採と剪定 ※倒木のおそれ、カラスの巣
6月	スワンプレハブ冷凍庫・冷凍機交換・扉改修
7月	管理棟雨どいの清掃
8月	作業棟外壁シーリング劣化による改善 ※雨漏り
9月	食堂の照明器具交換（LED化）
10月	男子更衣室・女子更衣室床貼替 ※雨漏り
10・11月	高圧機器ケーブル等（キュービクル23年以上使用）の更新
12月	厨房照明器具交換（LED化）
3月	男子更衣室・女子更衣室の建具交換

これらの中で工事費用が最も高額であったキュービクル関係（440万円）については、理事会や実行委員会での承認を経て施工しているが、地下埋設分の高圧機器ケーブルは、回収不能という想定外のアクシデントが発生したことから、5年後に耐用年数30年を迎える変圧器の交換工事と合わせて、実施するタイミングが今後の経営上の課題でもある。

## (4) 地域との連携

支援センターさくらとして参加している地域の会議や委員会などについては以下のとおり。

会議・委員会	頻度	出席者
--------	----	-----

大東市相談支援ネットワーク会議	2か月に1回	相談担当主任
大東市障害者自立支援ネットワーク	月1回	所長
同ネットワーク研修委員会	月1回	所長
大東市地域貢献委員会（社協）	年2回	所長、 6年度研修（2回）はホームズ課長と支援センターさくら主任が参加
就労移行支援事業所連絡会	月1回	課長
北河内東就業・生活支援センター運営会議	年1回	所長

・支援センターの取組みとして、就労移行支援や自立訓練では、大東市などの企業の協力により、個別の企業実習やグループ実習の実施、軽作業の受注を行っている。自立訓練プログラムでは、今年度地域の大手アパレル企業のご協力を得て身だしなみプログラムを実施した。また地域清掃（末広公園他センター周辺）を月1回実施。就労移行支援と自立訓練の利用者と職員が行なっている。地域の様々な行事の協力として、下記のとおりグラウンドを開放（駐車場、スポーツ活動）している。土日の夜間が多いことからホームズさくら・なでしこの協力を得て対応している。

・さくらフェスタ 11/3に実施。来場者 239名（OB 88名、地域の方 65名、利用者ご家

貸出・使用許可日	行事名、グラウンド使用内容	関係団体
8/25	大東四条畷平和夏まつり	平和夏まつり実行委員会
11/10	第44回大東市民まつり	大東市危機管理室
11/24	農業まつり	大東市産業経済室
11/30	大東市スマイルミネーション2024	大東市観光振興課
11/29	虐待防止研修	大東市障害者自立ネットワーク主催
1/12	大東市出初式	大東市危機管理室
主に土・日	グラウンドゴルフ	グラウンドゴルフ同好会
月～土	通園バスの通行	あすなろ保育園分園
年に数回	保育園園児の散歩	あすなろ保育園分園

族、他事業所他 86名）今年度は初めて大東市の「だいとう人材問屋」の協力を得て、マジックショーやドジョウすくいをしていただける方の出演が実現。昨年度に続き地域住民の方の協力で、フェスタの中でグラウンドゴルフを実施。出店団体は、支援センター中、しらすぎ、ねぎぼうず、交野市社協（共同募金）だった。

・スワン カフェ&ベーカリーでは、中学校の職場体験実習や商工会議所等のイベントなどを通して市民との交流が行なっている。職場体験学習として、9月に谷川中学校2年生の2名、12月に南郷中学校2年生1名を受け入れた。10月には住道南小学校2年生授業

「地域探検」に協力。就労継続支援 A 型スタッフ（利用者）が説明対応を行なった。11/2～12/20 大東商工会議所のスタンプラリー事業に協力。1/28～3/23 には大東市観光振興課主催の「謎解き宝探し in 大東」のイベントに、大東店は謎解きのチェックポイントという役割を果たした。また、事業所の特性としてパンの注文やイベントへの招待、企業敷地内等での販売において地域交流がある。イベントでは 6/8 連合大阪地区協議会主催スポーツイベント（住道南小学校）、8/2 中北製作所労働組合主催夏祭り、10/6 ひのよんマルシェ（大東市氷野 4 丁目自治会主催の祭り）、10/10・ 2/16 南郷保育園バザー、11/24 大東市農業まつり、3/9 大東市ボランティアフェスティバルである。

支援センターしらすぎ

I 事業一覧

1. 支援センターしらすぎ (定員 40 名)	
○自立訓練(生活訓練)事業	定員 6 名
○就労移行支援事業	定員 10 名
○就労継続支援 B 型事業	定員 24 名
○就労定着支援事業	
○訪問型職場適用援助者(ジョブコーチ)事業	
○地域活動支援センター(居場所支援型) 運営事業 しらすぎ・ネスト	
2. ホームズしらすぎ	
○共同生活援助事業	定員 49 名
○短期入所事業	定員 6 名

II 事業概要

1. 支援センターしらすぎ

堺市内における「就労を目指す日中活動先」としての役割を大切に、多機能型事業のメリットを活かした、その人らしい豊かな暮らしの実現を目指して支援を実施した。

(ア)多機能型事業 自立訓練(生活訓練)事業・就労移行支援事業・就労継続支援B型事業

多様化する利用者ニーズを踏まえ、利用する事業種別にとらわれず、ひとり一人のニーズに合わせた支援の実現を目指して、個別支援計画に基づき、以下の通り支援環境の再編に取り組んだ。また、加齢に伴う ADL の低下や家庭事情、障がい等の状況により、自力通所が難しい利用者をはじめ、希望する人を対象に送迎サービスを提供し、より多くの人々が利用できる環境整備に努めた。さらには、意思決定支援を支える基礎的環境整備のための取り組みに繋げるべく、コロナ禍で実質的な活動を休止していた利用者自治会活動の再開に向けた支援に注力した。具体的には、利用者の意見がセンターでの生活に与える影響を実感してもらうために、イメージしやすい休日プログラムの企画に参加してもらったが、利用者の声に基づいて企画された休日プログラムの参加率は、これまで職員側で企画していたものの数字を大きく上回り、参加者の表情から主体的に楽しめている様子もうかがえた。

(ジョブチャレンジ)

利用者の就職したいという希望を実現するべく、個別のアセスメントに基づいて一般就労に必要なスキルの習得と本人に必要な配慮事項を抽出する支援の提供を心掛けた。また、ビジネスマナーの習得や就職ガイダンス等、就労に向けたプログラムを提供と合わせて、企業見学や実習などの施設外活動も必要に応じて実施し、就労意欲を高めながら就職に繋がる支援

の提供に努めた。

#### (ワーキングライフ)

働きたいと願う利用者のニーズに応えるべく、それぞれの障がい特性に配慮し、その人のペースに合わせた「あきらめない就労支援」をテーマに取り組んだ。また、就職することだけを目標にするのではなく、利用者が社会との繋がりを感じられ、やりがいを持って取り組める作業等を開拓すると共に、それらの活動が工賃の向上に繋がるような取り組みに繋がるよう、建て替え後も利用者が取り組む作業活動として継続を予定している「かやふきん」のブランディングに着手した。加えて、令和 6 年度はより多くの工賃を支払うことができるよう、これまでの工賃支給規程を見直し、取り分け就労継続支援 B 型利用者の工賃について、月平均 10,000 円以上の支払いを実現することができた。

#### (グッドライフ)

利用者の年齢やこれまでの経験に応じた、その人らしい豊かな生活の実現に向けた支援を行うため、作業活動に捉われない日常的なプログラムの提供をテーマに取り組んだ。実施にあたっては、令和 6 年 10 月から事業開始した「地域活動支援センターしらさぎ・ネスト」と連携を図りつつ、芸術、園芸、運動をはじめ、趣味や余暇的な活動など、本人の興味・関心の広がりや生活の幅の拡がりに繋がる活動の提供に努めた。

#### (イ) 就労定着支援事業

月 1 回程度の訪問による支援を中心に、電話や来所相談の実施とあわせて、センターが実施する OB・OG を対象としたイベント等への参加や、令和 6 年 10 月から事業開始した地域活動支援センターしらさぎ・ネストへの来所を呼び掛け、気軽に相談等することができる環境作りに取り組んだ。また、ご本人を取り巻く就労先等の状況把握を行い、必要に応じて関係機関と連携をとりながら、利用者が安心して働き続けられる支援の提供に努めた。3 年半の利用期限を迎えた利用者については、これまでの支援経過を就業・生活支援センター等に丁寧に引継ぐとともに、サービス終了後も必要に応じて関係機関連携による支援が可能なネットワーク形成に注力した。

#### (ウ) 訪問型職場適用援助者(ジョブコーチ)事業

センター内に 1 名のジョブコーチを配置し、大阪障害者職業センターとの連携のもと、企業に出向いて障がい特性を踏まえた専門的な支援の提供を通じて、利用者の職場適応を図った。新たな担い手の育成を行うべく、実務経験の整った職員の研修に申し込んだが受講は叶わなかった。

#### (エ) 地域活動支援センター(居場所支援型) 運営事業 しらさぎ・ネスト

令和 6 年 10 月から、堺市の委託を受けてセンター敷地内に交流室を設け、利用者がいつでも自由に利用でき、落ち着いて過ごすことができる「居場所」の提供を行った。また、適宜利用者からの相談にも対応し、必要に応じて関係機関への繋ぎや情報提供等を行うとともに、趣味の広がりや交流の促進を目的としたプログラムの実施など、日常生活の質の向上に繋がる活動の提供に努めた。

開所日：月曜日から金曜日 12:00～18:00(金曜日は19:00まで)

※土・日・祝日と年末年始(12/29～1/3)は休業。

## 【令和6年度重点項目とその取り組み】

### ○支援の質の向上

利用者の状況に合わせた個別ニーズへの対応を基本として、アセスメントに基づく根拠のある支援に努めた。構造化をはじめとした環境整備等、自閉スペクトラム症への標準的な支援についての理解を深めるため、日中活動の支援に関わるスタッフのミーティング機会を増やし、現場での取り組みの根拠の確認や基本的な障がい理解についての研修等を行った。

一般就労等を目指すための支援については、個別支援計画を基本として、共通指標による客観的な評価を支援者間で共有し、方向性を統一した支援の提供により、年間で3名の就職者を送り出すことができた。

### ○建て替え後を見据えた事業内容の見直し

老朽化に伴う建て替えにあたり、プロジェクト会議を実施し建て替え後の事業内容や資金計画等について検討を重ねた。既に作業場面で導入を始めている個別化、構造化をはじめとした支援環境の整備や、日中活動における昼食提供の就労支援事業化に向けた準備的な取り組みにも着手した。送迎サービスについても、利用しやすい環境整備の一環として、加齢によって通所が難しくなった利用者への対応が導入した理由のひとつであるが、自力通所要件の緩和が新たな利用者層の獲得にも繋がっていることから、引き続き、多様化していくニーズに応えるためのツールのひとつとして活用していく。

### ○定員の充足

従前の支援学校や相談支援事業所、就業・生活支援センター等への情報提供に加え、ホームページをはじめ、Facebook、Instagram、X等のSNSメディアを活用して、センターで取り組む様々な活動内容や実績等、しらさぎの魅力を積極的に発信する活動に努めた。

送迎の開始に伴って、就業・生活支援センターからの紹介以外に、自力通所要件が緩和されたことに伴って、基幹相談支援センターからの紹介もあり、実際に利用に繋がるなど、年度途中で6名の新規入所者を迎えることができた。また、それとは別に過去にしらさぎの利用を経て就職したケースにおいて、企業側から相談を受け休職期間中のセンター利用を経て復職に繋がったケースも2件あった。

### ○エリア内事業の連携

ホームズと共通する利用者のケースワーク状況を定期的に共有し、日中活動から生活場面へ、相互に繋がりのある支援の提供に努めた。また、感染症や災害等の有事におけるエリア内での生活支援業務対応を想定し、日常業務レベルの連携や情報共有に努めた。

自立生活に向けた総合的な取り組みとして、利用者の生活力向上に向けた体験利用の場としてのホームズのショートステイ利用を勧めた。また、日中活動のPR機会では、しらさぎエリア全体で多様なサービスを組み立て提供できる魅力を外部に発信し、グループホームや短期入所事業の安定運営に繋がるよう情報発信の工夫を行った。

また、休日プログラムや日帰り旅行等、働くだけでなく、生活の幅を広げ、利用者自身が楽し

みを見つけられる余暇支援の充実にに向けた取り組みを実施した。取り分け、しらさぎまつりの実施にあたってはホームズと共同で企画運営し、近隣の他法人事業所や地域関係とも協同して、同日開催のイベントを実施した。

### ○安心・安全な環境・体制の確保

新型コロナ・インフルエンザ等の感染症や災害等が発生した場合でも事業が継続できるよう、エリア内はもとより、法人全体で横断的にサポートし合える体制の維持・活用に努めた。法人全体研修で取り組んだ防災 BCP のシミュレーションについては、今後、エリア内での研修実施に繋げ、有事を想定したより具体的な備えを整えていきたい。また、11 月に堺市と福祉避難所協定を締結したことを受け、年 2 回の避難訓練に加え、地元連合自治会が実施する合同防災訓練にも利用者を含めてこれまで以上に積極的に参加し、隣接する白鷺小学校等との連携を深めつつ、地域との連携を意識した防災体制の構築に取り組んだ。

## 2. ホームズしらさぎ

「ホームズしらさぎ」は、平成 29 年 4 月に日置荘原寺町にて地域生活を支援する拠点として開設し 8 年目を迎えた。共同生活援助事業は計 11 か所のグループホームについて、その支援体制が機能的に働くよう職員・世話人同士のコミュニケーションを重視した運営に努めた。

世話人の怪我による長期離脱や離職による人材不足の中、生活支援員による世話人業務のフォロー体制をはじめ、利用者一人ひとりが安心して安全な生活が送れるよう支援体制の整備に努めた。また、年間を通じて求人募集の取り組みを続けた結果、新たに 4 名の世話人の雇用することができた。

新型コロナウイルス等の感染症対策について、住居内における手洗い、手指消毒、マスク着用の励行や、換気および定時消毒、基本的な感染防止策は継続しながら、原則居室としていた食事提供については、希望に応じてリビングでの提供や誕生日会、外食の実施へとシフトする等、利用者一人ひとりが安心して安全な生活が送れるよう、その調整に努めた。外出や交流等の活動についても、以前の日常生活へシフトできる様に配慮しながら、移動支援事業者等とも連携を図りつつ可能な限り楽しい時間が過ごせる工夫に努めた。また、ワクチン接種については、そのメリットとデメリットを利用者一人ひとりに説明の上、希望する利用者について、接種にまつわる全般の支援を行うとともに、コロナ感染者が出た場合には医療機関の受診や各居室等での療養支援等、必要な支援を行った。

短期入所事業についても、感染防止策を継続しつつ、利用者ニーズに応えながら開所日の増加・安定に努めた。

### 【令和 6 年度 重点項目とその取り組み】

新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染予防対策を講じつつ、利用者の意見を聴きながら、快適な日常生活及び交流や余暇活動等の機会提供に努めた。

#### 利用者ニーズを中心とした安定的な経営

##### ○定員の充足

安定的な経営基盤を整えるため、空き室の早期解消を目指し、支援学校や地域の相談支援事業所、ショート利用者への情報提供等を行った。また、必要に応じて関係機関との情報共有や体験利用の機会を提供しながら課題解決に努めたが、医療体制の整った居住施設への転居や入院先で亡くなられた利用者、触法行為により退所を余儀なくされた利用者等、今年度4名の退去者が出たことで空床は計6床となった。

#### ○短期入所サービスの利用促進

稼働日を増やして安定的に運営できるよう、世話人配置の充足に努めた。事業本来の地域資源としての役割を果たすべく、センター利用者等の生活力向上に向けた体験利用ニーズの受け入れを再開し、コロナ禍以前の週3日開所を実施した。年度途中で世話人が私傷病により長期療養を余儀なくされたため、9月以降は週2日に縮小しながらも、ニーズに応えられるよう利用日を調整し1日当たり4~5名の受け入れを継続した。外部利用者の受け入れについては、体制が整わず実施には至らなかった。

#### ○余暇支援の充実

コロナ禍以降、各種余暇支援の取り組みを再開し、利用者が日々の生活に楽しみと豊かさを感じられるよう支援に取り組んだ。ガイドヘルプを利用した余暇のための連絡調整をはじめ、全ての住居ではないものの、ホームでの囲らん食や外食も実施することができた。また、いちご狩り、育成会旅行への同行、新年会の実施等、利用者の生活が豊かになるよう余暇支援に努めた。

### **安心・安全な環境・体制の確保**

#### ○権利擁護体制の強化

貴重金品預かりサービスの実施を含め、より透明性の高い事業運営が求められることに留意し、内部牽制体制の強化に努めた。また、新たな同サービス利用や退去に伴うサービス終了に係る確認及び関係者との連絡調整についても丁寧な対応を行った。

引き続き、必要に応じて成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用促進に取り組んだ。特に利用者、家族の高齢化に伴って、必要性が高いと思われる方については成年後見制度の利用も選択肢に加え、各関係機関と連携しながら必要な支援体制の構築に努めた。

#### ○支援人材の確保と質の向上

慢性的に不足する世話人・支援員の確保に向けて、ハローワーク、ジョブギア、株式会社パソナ、高石シルバー人材センター、HRドメイン等、様々な形で積極的な採用活動を実施し4名の世話人を採用することができたが、私傷病により2名が退職することになった。

また、支援の質の向上を目指して、ホームズしらすぎ独自で世話人会議の機会を活用して、介護研修(株式会社ニコラインが講師)を実施。利用者の重度化や高齢化に対応するべく、毎月の会議でのミニ研修や法人が実施する世話人全体研修への参加奨励、キャリアパス研修や各自が希望する研修の確認と参加への配慮を行うなど、学ぶ機会の確保に可能な限り取り組んだ。

夕食提供で利用している食材配達業者の食事量や品数について、一部利用者から少ない等の意見が出ていたため、別事業者への変更も視野に対応を検討し試食等も行ったが、条件に合う業者はなく変更には至らなかった。

#### ○感染症や災害等に備えた危機管理体制の整備と検証

新型コロナウイルス感染者や災害等が発生した場合でも事業が継続できるように策定した、BCP(事業継続計画)の内容精査や住居によってはマンションのオーナーとも連携しながら各ホーム年2回の避難訓練等を実施した。

### エリア内事業の連携強化

#### ○日中活動から生活へ 相互に繋がりのある支援の提供

センターの日中活動を利用している利用者のケースワーク状況について定期的に共有し、より質の高い支援の提供に努めた。また、感染症や災害等の有事におけるエリア内での生活支援業務対応を想定し、サイボウズ等を活用した日常業務レベルの連携や情報共有に加え、ケース会議、モニタリング会議等への参加を実施した。

#### ○短期入所サービスの利用促進

自立生活に向けた総合的な取り組みとして、センターの日中支援とも連携を図り、利用者の生活力向上に向けた体験利用の場としてのショートステイ利用を促した。また、日中のOB、OG、現利用者のニーズ共有に努めた。

## Ⅲ 年間行事、日課など

### 1. 日課

午 前		午 後	
8:15～	通所	12:00～13:00	昼食・休憩
9:00～	体操	13:00～15:30	作業
9:20	朝礼	15:30	清掃、終礼
9:30～12:00	作業	16:00	終了、帰宅

### 2. 年間行事

月	自立訓練事業・就労移行支援事業・就労継続支援B型事業	共同生活援助
4月		
5月	・バーベキュー(休プロ)	・いちご狩り
6月		・世話人研修(人権研修)
7月	・泉北ブロック進路関係機関連絡会	・避難訓練
8月		
9月	・大阪大会(堺市) ・日帰り旅行(淡路島)	・育成会旅行参加
10月	・利用者健康診断 ・スポーツフェスタ ・避難訓練	・世話人研修(人権研修)

11月	・しらさぎまつり(ホームズ合同) ・白鷺校区連合自治会防災訓練	
12月	・利用者忘年会	・育成会旅行参加 ・避難訓練
1月	・泉北ブロック進路関係機関連絡会	・新年会
2月	・歯科検診/口腔ケア	・世話人研修 ・新年会
3月	・虐待防止研修(ホームズ合同) ・避難訓練 ・泉北ブロック進路関係機関連絡会	
・毎月:土曜日開所(1回)、休日プログラム(1回) ・不定期:家族会		

#### IV 事業概況

##### 1. 利用者の状況

##### ① 自立訓練(生活訓練)・就労移行・就労継続B型・就労定着 (人)

利用者/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍者	34	34	34	34	33	34	33	33	35	36	36	34
当月入所者	1	1	0	0	0	1	0	1	2	1	0	0
当月退所者	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2
自立訓練	男性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	女性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
	計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
	利用率	35.6	34.8	31.8	29.2	28.3	26.1	32.6	25.8	31.0	30.2	24.6
就労移行	男性	3	4	4	4	3	3	3	3	2	2	2
	女性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	5	6	6	6	5	5	5	5	4	4	4
	利用率	44.5	54.1	58.6	55.0	49.1	43.0	54.3	48.2	39.0	41.2	38.6
就労継続B型	男性	21	20	20	20	20	21	20	20	21	22	22
	女性	5	6	6	6	5	5	5	6	7	7	8
	計	26	25	25	25	25	26	25	26	28	29	30
	利用率	93.9	96.6	89.0	88.9	81.7	81.3	93.8	95.1	97.2	100.4	92.3
就労定着	契約者	14	14	13	13	13	14	14	14	13	13	11
	実績	12	12	12	12	12	12	11	14	13	13	11

※利用率(%): 当月の延べ人数 ÷ 定員 \* 開所日数

その他利用者情報(障害支援区分と援護市の状況)

(人)

事業名		自立訓練	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
障害支援区分	区分6				1
	区分5			3	6
	区分4			5	7
	区分3		1	6	14
	区分2		1	6	12
	区分1				3
	区分なし	2	2	6	0
援護市別利用者数	堺市 2	堺市 4	堺市 24 富田林市 1 河内長野市 1 松原市 1 和歌山市 1	堺市 34 泉大津市 3 高石市 2 八尾市 2 大阪市 1 和歌山市 1	

(年齢の状況)

(人)

事業名		自立訓練	就労移行	就労継続B型	共同生活援助
19歳以下	男	1			
	女				
20歳～29歳	男	1	2	5	2
	女	1	3	2	3
30歳～39歳	男			5	7
	女				1
40歳～49歳	男		1	2	6
	女			2	3
50歳～59歳	男			6	11
	女				4
60歳～69歳	男			2	5
	女				1
70歳以上	男				
	女				
平均	男	20	32.6	42.3	48
	女	20	23.3	34	44
		20	28	40.9	46

## 2. 短期入所の実施状況(ホームズしらさぎ)

利用量\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1泊2日	25	20	16	18	21	20	20	15	18	14	16	26	229
2泊3日	8	9	8	6	8	12	9	11	8	13	9	10	111
3泊4日	2	3	3	5	2	0	0	0	0	0	0	1	15
緊急一時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宿泊延べ日数計	82	78	68	74	74	76	67	63	60	67	59	82	851

## 3. 就労支援の状況(支援センターしらさぎ/実習実績、工賃支給実績、就ポツ、JC、エルチャレなど)

### ① 求職・就職・実習の実績

月	職安	面接	マンション清掃	実習	トライアル雇用	就職
4	1	1	2	0	0	0
5	0	2	4	1	11	(1)
6	2	1	4	6	21	0
7	1	0	5	4	23	0
8	0	0	4	0	19	1
9	0	0	4	3	20	0
10	0	0	7	4	20	(1)
11	0	0	8	1	14	1
12	0	0	7	3	0	0
1	1	1	4	1	0	0
2	0	1	4	7	0	1
3	0	0	6	0	0	1
計	5	6	59	30	128	3(2)

職安・・・支援員動向による求職活動支援人数(単独で行われた分は計上しない)

面接・・・合同面接会不参加のため計上なし

### ② 就職先の業種(内容)

・食品工場(コンテナ洗浄)、自動車販売店(洗車)、・保険業(事務補助)

※復職:小売業(軽作業)、清掃業

### ③ 実習先の業種(内容)

・エルチャレンジ(清掃訓練) ・民間マンション清掃 ・食品工場

・自転車部品倉庫 ・衣類小売り店 ・自動車販売店 ・特例子会社(軽作業)

・デイサービス施設

④ 平均工賃(1人当たり:月額)

	就労継続B型	就労移行・自立訓練
4月	9,275円	8,855円
5月	9,399円	8,824円
6月	9,090円	13,377円
7月	10,022円	14,708円
8月	9,197円	14,978円
9月	9,006円	14,796円
10月	13,035円	18,849円
11月	12,292円	18,418円
12月	11,777円	17,473円
1月	10,820円	16,554円
2月	10,456円	15,737円
3月	10,752円	17,806円
月平均支給額	10,480円	14,774円

※R6報酬改定B型平均工賃方式にて算出(工賃支払総額÷(延べ利用者数÷開所日数))

⑤ 職場適応援助者(ジョブコーチ)支援制度実績…今年度実支援人数 10名

利用者(障害種別内訳)

知的障害			精神障害	身体障害	その他	合計
B2	B1	A				
2	7	1	3(2)	(2)	(2)	13

※( )重複者数

活動実績(延べ件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	3	5	5	3	5	6	6	6	5	5	3	5	56
延べ支援件数	12	19	19	11	18	18	23	13	21	19	13	16	202

## 支援センターねぎぼうず

### I 事業概要

生活介護事業所として7年（育成会事業所として8年）が経ち、余暇プログラムの拡充、意思決定支援への取り組み等を行い作業中心の活動から利用者1人1人のニーズに合った個別支援を充実する事ができた。

4月と2月に満足度調査を実施し、日頃の支援や行事・イベント等についての満足度の調査を実施した。既存の行事のマンネリ化が見られる中、今年度から新規またはリニューアルした行事の評価が高かった。また、大阪市エリア間連携として支援センター中と月1回エリア会議を開催し情報の共有を行うとともに、職員の交換研修や応援の派遣、合同でのイベント、土曜開所を実施し連携をより一層深められた。課題となっている新規利用者の獲得については積極的に広報活動を行うとともに、相談支援事業所や特別支援学校にアプローチを行うが新規利用者の獲得には至らなかった。

コロナ後、月1回家族会を実施し事業所の活動報告をするとともに、高齢化するご家族の悩みや希望等意見交換を行う。結果、5月と8月に1名ずつがホームズみのおに入居した。男性1名が4月から短期入所の利用を開始した。またご家族の入院時には約1か月間の短期入所利用を行いご家族も安心して暮らせる環境を整えた。

### II 事業内容

生活介護事業	定員20名（現員12名）
--------	--------------

### III 課題への取り組み（令和6年度重点項目の取り組み）

#### ○日中活動の取り組みについて（プログラムの充実と意思決定支援の強化）

既存のプログラムに加え4月から音楽療法、10月からアートとエイサー、11月より健康体操をそれぞれ月1回実施しプログラムの拡充を行った。意思決定支援の強化として、4月から本人の会（名称・笑顔いっぱいねぎぼうず）を発足。販売当番や行事、イベント内容を利用者中心で検討した。また今年度より社会見学をグループ毎で実施し、これまで以上に利用者の希望に沿った内容で実施できた。休憩時間の過ごし方についても利用者用のタブレットを購入し活用している。

#### ○生産活動について

職員の退職により支援体制の不足、余暇プログラムの拡充に伴い随時内容の見直しを実施し受注量の調整を行った。製菓の製造・販売については8月に生菌検査を実施し賞味期限や保存方法の確認を行うとともに9月に販売規程を策定し安全への意識を高める事ができた。

### ○利用者確保について

4月に活動広報用のInstagramを開設。ホームページと合わせて情報発信を行う。6月に港区基幹相談支援、8月に大正区内の相談支援事業所にパンフレット、チラシを配布。また相談支援員来訪時にアプローチを行う。2月、学校校区見直しにより住之江区の一部が当センター送迎範囲となったため、住之江支援学校を訪問するも新規利用者の獲得には至らなかった。

### ○職員体制について（人材確保）

ハローワークやジョブギアの活用、チラシの作成・配布を行い人材確保に努めた。5月に登録制生活支援員1名を採用するもご家庭の事情で7月末に退職。8月より中の作業療法士1名が月1回、9月より非常勤生活支援員1名が月1回（10月より月2回）応援で勤務し職員体制の維持を図った。12月末で女性非常勤支援員（フルタイム）が退職。土曜開所による職員の代休が難しくなったため開所日の変更（減少）と中との合同開所を実施した。

### ○感染防止について

今年度はコロナウイルス、インフルエンザの感染者は利用者・職員共に無かった。7、8、9、10月に感染症防止委員会を開催。また12月のインフルエンザの感染拡大時に臨時で開催し、BCPの作成、感染防止策について検討を行った。11月に希望者に対し嘱託医によるインフルエンザの予防接種を実施した。また月1回嘱託医と看護師が訪問し、相談やバイタルチェックを実施するとともに7～8月に健康診断を行い利用者の健康管理に努めた。

### ○BCPIについて

以下のとおり実施をした。

計画策定	4/1
周知・研修・訓練	12/11
定期的な見直し	11/25
感染症対策委員会	7/25、8/26、9/25、10/9（研修）、12/24
感染症対策指針	4/1

## IV 年間行事、日課など

### 1. 日課

午 前		午 後	
9 : 40	登 所	1 : 00	作業・活動再開
10 : 00	朝礼・ラジオ体操		2 : 00 水分補給・体操
10 : 15	作業・活動開始	3 : 00	作業・活動終了
	11 : 00 水分補給		水分補給・清掃・終礼

11:45	昼食・休憩	4:00	降所
-------	-------	------	----

## 2. 年間行事

日時	行事名	場所・内容等
令和6年4月4日	造幣局・観桜会	大阪造幣局
令和6年6月27日	カラオケ大会	HOS ボウリングスペース HIT
令和6年7月7日	手をつな good ボウリング	
令和6年7月25日	調理実習	キーマカレー作り
令和6年8月15日	夏祭り	支援センターねぎぼうず
令和6年9月24日	身だしなみ講座	中と合同で実施
令和6年9月29日	知的障がい者福祉大会福祉・大阪大会	堺市・ビッグアイ
令和6年10月11日	日帰り旅行	ミスドミュージアム 宝塚ホテル（昼食）手塚治虫記念館
令和6年10月20日	大正区民祭り	大正区役所他
令和6年11月9日	きらめきパーティ	大正区社会福祉協議会主催
令和6年11月22日	グループ外出①	海遊館
令和6年12月2日	日産労連チャリティーミュージカル	堺市・ビッグアイ
令和6年12月14日	中・ねぎぼうず合同クリスマス会	東成区民センター
令和6年12月21日	忘年会	支援センターねぎぼうず
令和7年1月9日	新年会	支援センターねぎぼうず

令和7年1月23日	グループ外出②	カップヌードルミュージアム
令和7年2月4日	グループ外出③	明治なるほどファクトリー
令和7年3月17日	グループ外出④	難波・日本橋周辺散策
令和7年3月27日	ごくろうさん会	支援センターねぎぼうず

その他

毎週木曜日	喫茶サービス
月1回	体操教室、アート、エイサー、音楽療法、健康体操
月1回	大正区手をつなぐ親の会定例会
第2水曜日	午前日課（職員会議）
不定期	入浴サービス・洗濯サービス

V 事業概況

1. 利用者の状況

令和7年3月31日現在

利用者／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
在籍者	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12		
当月入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当月退所者	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
生活介護	男性	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6		
	女性	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6		
	計	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12		
	開所日数	22	23	22	23	23	21	23	22	23	20	19	21	262
	延べ利用者数	226	214	203	203	198	176	194	191	186	143	150	174	2258
利用率	51.4	46.5	46.1	44.1	43.0	41.9	42.2	43.4	40.4	35.8	39.5	41.4	43.1	

※利用率（％）：当月の延べ人数÷定員\*開所日数

## 2. その他利用者情報

(障害支援区分と援護市の状況)

令和7年3月31日現在(人)

事業名		生活介護			
障害支援区分	区分6	4			
	区分5	5			
	区分4	3			
	区分3	0			
	区分2	0			
	区分1以下	0			
援護市別利用者数		大阪市(12名)			

## 3. 年齢の状況

令和7年3月31日現在(人)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計	平均(歳)
男性	0	1	2	1	2	0	6	39.5
女性	0	0	2	1	3	0	6	44.6
合計	0	1	4	2	5	0	12	42.0

## 4. 工賃支給実績

月	開所日数	工賃支払対象者数	支払い工賃総額(円)
4	22	12	41,400
5	23	12	42,800
6	22	12	40,600
7	23	11	40,600
8	23	12	39,600
9	21	11	35,200
10	23	12	38,800
11	22	12	38,200
12	23	11	37,200
1	20	11	28,600
2	19	11	30,000
3	21	12	34,800
賞与		12	222,988
合計	262	151	670,788
平均	21.8	11.6	1人1か月平均4443.6

